

和歌山市子ども読書活動推進計画

平成25年3月

和歌山市



「和歌山市子ども読書活動 推進計画」策定に寄せて

和歌山市長 大橋 建一

素晴らしい本との出会いにより、子どもたちは、言葉を学び、感性をみがき、表現力をたかめ、想像力を豊かなものにします。

また、読書は一生の友達ともなりえます。人生を切り拓く糧となり、あるいは進路を照らす灯台にもなります。

この「和歌山市子ども読書活動推進計画」は「子どもの読書活動の推進に関する法律」第9条の規定に基づいて策定された国及び県の計画を基本とし、本市の状況を踏まえた計画としました。

今後は、この計画に沿って、行政担当部署、関係機関・関係団体の連携を図り、子どもの読書活動推進のために積極的に取り組んでまいります。

目 次

第1章 推進計画策定の背景	1
1.1 子ども読書活動の意義	1
1.2 計画策定までの経緯	1
1.3 和歌山市の子どもの読書状況	1
第2章 推進計画の基本方針	2
2.1 計画の構成	2
2.2 計画の期間	3
2.3 計画の対象	3
第3章 家庭・地域における子どもの読書活動の推進	4
3.1 現状と課題	4
3.2 家庭における子ども読書活動の推進の具体的方策	8
3.3 地域における子ども読書活動の推進の具体的方策	9
第4章 学校等における子どもの読書活動の推進	10
4.1 現状と課題	10
4.2 幼稚園・保育所における子ども読書活動の推進の具体的方策	11
4.3 学校における子ども読書活動の推進の具体的方策	12
第5章 図書館における子どもの読書活動の推進	13
5.1 現状と課題	13
5.2 図書館における子ども読書活動推進の具体的方策	14
第6章 各関係機関・団体等が連携した子どもの読書活動の推進	16
6.1 現状と課題	16
6.2 学校と市民図書館の連携	17
6.3 コミュニティセンターと市民図書館の連携	18
6.4 ボランティア団体等との連携	19
第7章 まとめ	19

推進計画策定の背景

1.1 子ども読書活動の意義

読書は、自ら課題を見出し、考え、判断し、表現する能力を養い、人生をより豊かに生きる力を身に付けていくうえで欠くことのできないものです。また、読書によって、人と人との関係を豊かにするコミュニケーション能力も学ぶことができます。

子どもは、読書を通して、言葉の美しさや多様性、楽しさを学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにします。

しかし、今日、テレビ、インターネット等の様々な情報メディアの発達・普及や生活環境の変化、さらには幼児期からの読書習慣の未形成等により、子どもの「読書離れ」「活字離れ」が指摘されています。次代を担う子どもたちが、読書の喜びを味わい、読書を通して生きる力を身につけていくことは極めて大切なことです。

1.2 計画策定までの経緯

国は、平成13年に、子どもの読書活動に関する施策の総合的、計画的な推進を図るため、「子どもの読書活動の推進に関する法律」を制定し、平成14年には「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」（第一次基本計画）を策定しました。この計画は、すべての子どもが自主的に読書活動を行うことができるよう、読書環境の整備を進めることを基本理念とするものです。そして平成20年新たな「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」（第二次基本計画）を策定しました。

また、和歌山県では平成16年に、①子どもが読書に親しむ機会の提供と環境の整備・充実、②家庭、地域、学校を通じた社会全体での取組の推進、③理解と関心を高めるための啓発・広報を基本方針として、「和歌山県子ども読書活動推進計画」（第一次計画）を策定し、平成21年にはこれを改定した新たな「和歌山県子ども読書活動推進計画」（第二次計画）を策定しました。

和歌山市では、これら国、県の計画を基本としながら、本市の実情を踏まえ、子どもの読書環境を計画的に整備し、子どもの発達段階に応じた読書活動の推進に全庁的に取り組むため、「和歌山市子ども読書活動推進計画策定委員会」を設置し、「和歌山市子ども読書活動推進計画」を策定します。

1.3 和歌山市の子どもの読書状況

平成24年7月に和歌山市内の小・中学生を対象とした読書に関するアンケート調査、また、7月～8月に乳幼児の保護者を対象としたアンケート調査を実施し、市内の子どもの読書活動状況について調べました。その結果、小・中学生の1か月の読書量をみると、「ほとんど読まない」と回答した児童生徒の割合は、小学2年生で6.4%、小学5年生で15.9%、中学2年生で52.4%（アンケート・資料編：P33）となりました。

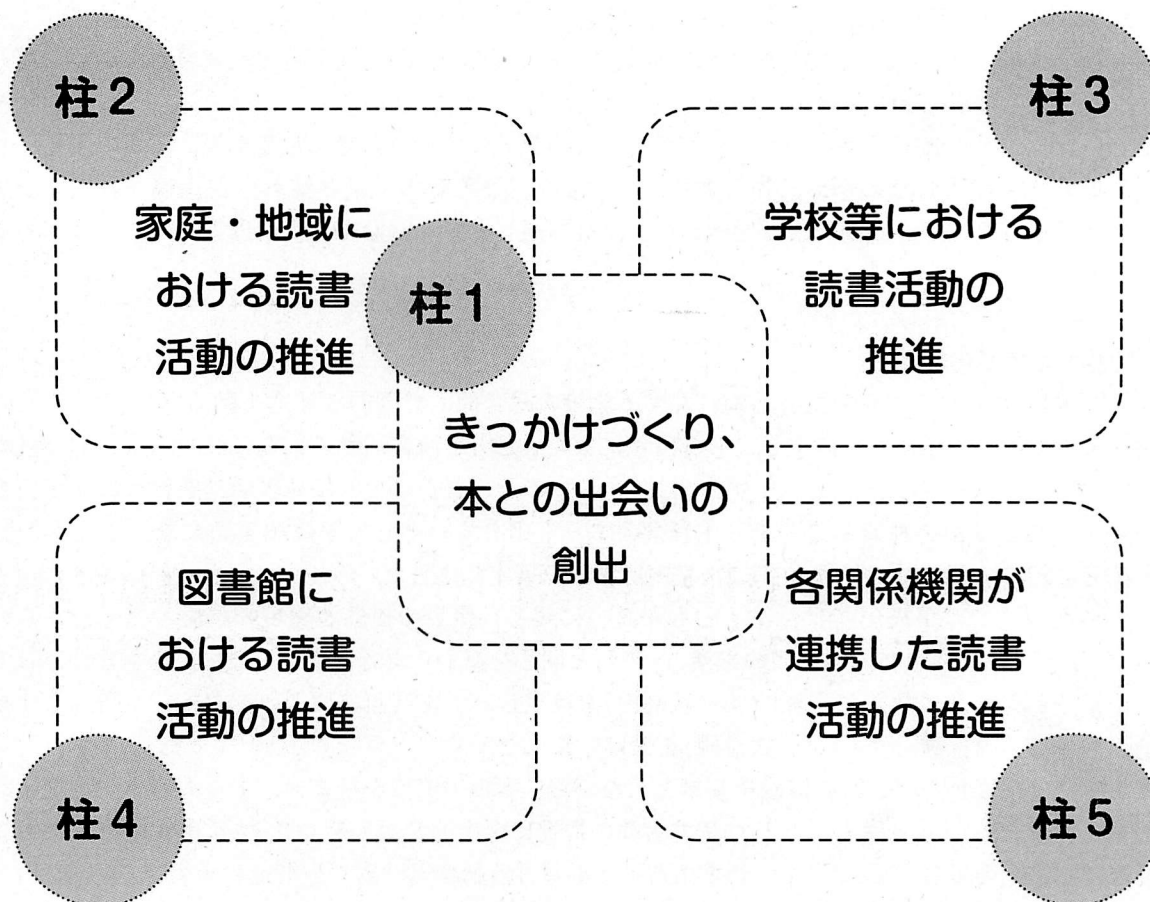
一方、全国学校図書館協議会と毎日新聞社が全国の小・中・高等学校の児童生徒の読書状況について調べた第57回読書調査（2011）では、「ほとんど読まない」児童生徒の割合は、小学生で6.2%、中学生で16.2%がという結果が出ています。全国の読書調査の方は小学生全体の平均の数字ということで、厳密な比較とはなりません。概して和歌山市の児童生徒の読書率は低く、また、高学年になるにつれてその傾向は顕著となるということがわかりました。

また、乳幼児の保護者を対象としたアンケートでは、子どもへの読み聞かせの頻度について1週間に「ほとんど読まない」と回答した保護者は18.4%（アンケート・資料編：P48）でした。乳幼児、児童生徒いづれも不読者に対する働きかけ等、読書指導にいっそう力を入れる必要があります。

第2章 推進計画の基本方針

2.1 計画の構成

次の5つの柱に基づき、具体的な取組を進めます。



(1) きっかけづくり — 本との出会いの創出

子どもの成長に関わるあらゆる場所・場面において、子どもが本と気軽に自由に出会い、好きになれる機会をつくるよう努力します。本と出会い、子どもが読書の楽しさに気付き、自主的・自発的に読書ができる習慣を形成していくことが大変重要となります。そのために、すべての子どもがその発達段階に応じて、身近なところで、本と出会い、触れることができるよう読書環境の整備を推進します。

(2) 家庭・地域における読書活動の推進

家庭や地域は、多くの子どもが1番最初に読書活動を経験し、読書習慣を形成していく場です。乳幼児期の読書活動の状況や、家族の読書活動の状況は、子どもの今後の読書活動に大きく影響を与えます。子どもたちの読書活動の効果的な推進のためには、家庭・地域における読書活動の重要性を再認識する必要があります。

(3) 学校等における読書活動の推進

子どもが読書の習慣を身につけ、継続した読書活動を行うために、また読書によって他者と価値観を共有できる場としても、学校等は大切な役割を担っています。保育所・幼稚園、学校でそれぞれ年齢や発達段階に応じた読書活動を計画的に進めます。

(4) 図書館における読書活動の推進

図書館は、子どもから大人まであらゆる世代の読書活動に関わる場であり、読書活動推進の中心です。図書館では、学校や地域で行われる様々な読書活動の支援や、市内全域における図書館サービスの充実、情報発信や啓発に努めます。

(5) 各関係機関が連携した読書活動の推進

学校と図書館、コミュニティセンター図書室と図書館など各施設の連携、そして市内ボランティア団体等との連携を図ることが子どもの読書活動推進には不可欠です。これらの連携を一層深め、「点」から「面」へと効率的に子ども読書活動を推進していきます。

2.2 計画の期間

本計画は、平成25年度から平成29年度までの5か年を対象とします。なお、時勢や状況に応じて見直しや検証・修正を行います。

2.3 計画の対象

本計画の対象は、0歳からおおむね18歳までの子どもとします。なお、子どもの読書活動推進に関わる保護者をはじめ、教員や地域住民などの大人も対象としています。



第3章 家庭・地域における子どもの読書活動の推進

3.1 現状と課題

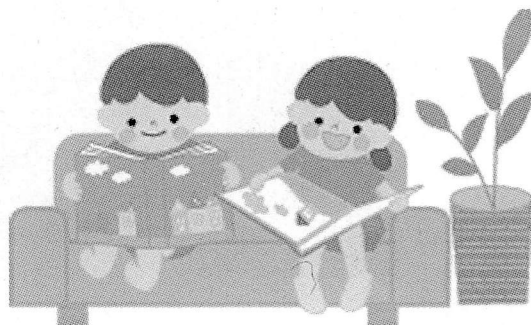
教育委員会では、平成22年度より「おうちで読書」略して「うちどく」を推進しています。子育て中の保護者とその子どもが、週一回テレビ等を見ないで過ごすアウトメディアの日を設定して読書に取り組むことを通し、家族がコミュニケーションを図るとともに、子どもの心を豊かに育む家庭教育の充実を図るものです。学校が中心となり、図書館やコミュニティセンター等と連携し、「うちどく」の大切さを広く知ってもらうとともに、うちどく用図書の充実を図り、読書活動のきっかけとして「うちどく」が普及していくよう努めているところです。

(生涯学習課)

平成24年4月1日現在、和歌山市内に6館あるコミュニティセンターのうち、5館にコミュニティセンター図書室があり、5館で163,185冊（一般書104,103冊・児童書59,082冊）の蔵書があります。しかし、劣化の激しい図書が多い館や、蔵書構成が古い館、開館して日が浅く書架の埋まっていない館があり、各館の蔵書の状況にあうよう良書を吟味して、またニーズを汲み取って購入する必要があると考えます。特に、ニーズ調査に関して、アンケートで、「図書館に行かない」と回答した中学生の半数近く（アンケート・資料編：P43）が「読みたい本がない」と回答していることから、需要を掘り起こすべく、ティーンズ向け図書の充実が課題の一つであることがわかります。

また、コミュニティセンターに図書室があるという周知が不十分のため、利用率が低くなっています。乳幼児の保護者に「あなたは、図書館などを利用していますか？」ととったアンケート（アンケート・資料編：P55）で、市民図書館が15.5%の方が利用したと答えた中、コミュニティセンター図書室は平均で5.4%と低くなっています。アンケート対象者が子育てに時間をとられコミュニティセンター図書室等へ出かける時間が捻出できないという事情を勘案してもなお、この結果は低く、原因として、市民図書館と相互に利用できるということが十分に周知されていないことや、無料駐車場があり利便性がよいという情報が周知されていないということが考えられるので、市報やホームページを通じた広報活動等を積極的に行う必要があります。

各コミュニティセンターでは、乳幼児・児童と保護者を対象とした絵本の読み聞かせの会を、定期的に行なっています。しかし、読み聞かせに関心のある保護者の方のリピーターが多く、新しい参加者が少ないのが現状です。よって、より多くの保護者に対して読み聞かせの大切さを啓発し、気軽に楽しく参加できる雰囲気作りや、読み手のスキルアップが必要となってきます。また、子どもが興味をひくような、見やすくわかりやすい大型絵本の活用状況も充実を図る必要があります。大型絵本は現在、市民図書館以外では北コミュニティセンターが複数所蔵していますが、他コミュニティセンターにおいても積極的な購入を検討するほか、他コミュニティセンター間でも気軽に大型絵本を使用できるよう、連携を強化する必要があります。



※ うちどく… 子どもを育てる世代の家庭で、本を中心に子どもと一っしょに読書する時間をもつ取組を「おうちで読書」、略して「うちどく」といいます。

(青少年課)

若竹学級のコーディネーターが市民図書館から200冊の本を借り、5カ所の若竹学級に40冊ずつ配置し、それを2～3カ月のサイクルでローテーションさせています。また2カ所の若竹学級では、県立図書館から本を借りています。長期休暇中に児童を引率して図書館で読書の機会を提供している若竹学級もあります。読書環境の整備については、各学級の指導者に任されているため、まずは指導者に読書活動推進の意義について理解を求めていく必要があります。

(市民図書館)

市民図書館では、これまで、3階ホールを利用して親と子を対象に、図書館利用のきっかけ作りとして、子どもビデオシアター、親と子のおりがみ教室を毎月行ってきました。しかしながら、季節により、利用者の少ない月もありました。上映のできる良いソフトが少ないことも一因ですが、ホームページで発信するなど情報提供の方法を工夫し、さらなる図書館利用のPRをし、様々な事業を、3階ホールで行っていきます。

また、児童室の壁面に季節ごとのテーマを決めて、展示していますが、その内容もより一層工夫し、新しく今までにない特集（児童室お薦め本リスト、新しく入った本リスト）を掲示していきます。

移動図書館は、パンダ号・くすのき号の2台で市内の小中学校を中心に、36カ所を巡回しています。図書館施設から遠隔地にある方々への図書館サービスとして重要な役割を今後も果たしていきます。

(学校教育課)

学校教育課では、平成22年度から「そのうち“徳”する『うちどく』」を推進しています。その取組の一つとして、「うちどくノート」を作成し、親子で読後の感想やお薦めの本について記入できるようにしています。幼児用については、市民図書館やコミュニティセンターでも配布しています。

また、平成24年5月から、毎月第1土曜日を「うちどくの日」として設定し、広報ちらしを配布（アンケート・資料編：P60）し、各家庭における一層の「うちどく」の推進を図っているところです。

「うちどく」の優秀実践校では、保護者や地域ボランティアの力を得て、学校図書館における読み聞かせの充実や図書の整備に取り組み、子どもの読書活動の活性化に効果を挙げているところです。このことから、読書が生む効力を、学校・家庭・地域の三者が共通理解し、協力しながら読書活動推進のための取組を進めていくことが重要であることがわかります。

※ 若竹学級… 放課後または夏休み等の長期休暇中に、保護者が労働等により家庭において監護が困難と認められる、おおむね10歳未満（1年生から3年生）の児童を対象として、授業の終了後に学校の余裕教室等を利用して、適切な遊び及び生活の場を与えて、その健全な育成を図るものです。

※ コーディネーター… 各小学校と若竹学級指導員との調整役となり、若竹学級の運営の効率化を図る為に設置しています。

今後は、「うちどく」推進モデル校を指定し、学校が中核となって家庭や地域、関係機関と連携した読書活動推進の取組の実践的研究を行っていく予定です。

また、各学校においては、読書への誘いとして、朝や昼に10分から15分程度「読書タイム」を設定したり、発達や子どもの興味関心に応じた「読み聞かせ」を実施したりしています。しかしながら、中学生になると、学校生活や活動が多岐にわたるため、一斉の「読書タイム」の時間設定が困難になる現状があります。「朝読書」に取り組む中学校では、生徒の集中力が増し、思考力が向上したという報告もあることから、今後、中学校においても一斉「読書タイム」を設け、生涯にわたる子どもの継続的な読書活動へとつなげていくよう働きかけていきます。

(子育て支援課)

家庭での読み聞かせの推進のため、年間を通して、子育てひろばや地域子育て支援センター、つどいの広場で絵本の読み聞かせを実施しています。しかし、依然として、読書が子どもの成長や学びにとって大切であるという認識は十分とは言えず、家庭での読み聞かせを浸透させていく必要性があります。今後は読み聞かせの機会を増やすことで、その大切さや意義を伝え、家庭で読み聞かせをする意識を啓発していきます。

また、子どもの年齢に応じた推薦図書情報を配信することにより、保護者による読み聞かせの気運を高め、本の楽しさを知るきっかけになる情報の提供に努めていきます。



(保育課)

幼い子どもにとっては、保護者が一対一で向き合い絵本を繰り返し読んでもらうことが、保護者の愛情を感じながら読書に親しむ最初の一步です。また、保護者にとっても子どもとの心の通い合いを感じ、絆を深めることができる大切な時間です。

保育所では、毎週絵本の貸し出しを行い、保護者と子どもとの関わりの機会をつくっています。今後とも、乳幼児期の段階から読書の楽しさを体感できる機会を積極的に設けていくために保護者への啓発活動に取り組んでいく必要があります。

※ 子育てひろば・・・家庭の教育力向上を目的に、親子が集い、子どもと共に親も成長していく場を提供しています。就園前の乳幼児とその保護者を対象にコミュニティセンターおよび健康館で開設しています。

(地域保健課)

保健センターでは、現在、10か月児健康診査時に読み聞かせの大切さについて周知し、保育士による絵本の読み聞かせを実施しています。今回のアンケートから絵本の読み聞かせを「聞いていない」と回答した方は28.5%おり、また、「聞いた」と回答した65.2%の方のうち「特に変化がない」と回答した方は33.2%でした（アンケート・資料編：P54）。しかしながら、これを機に「家庭で絵本の読み聞かせを始めた」「読み聞かせの会に参加する」など絵本と触れ合う機会となったと回答した方もいます。

保健センターが実施する乳幼児健診は受診率が高いため、読み聞かせを行っていない家庭や、読むことはあっても習慣化されていない家庭に対して啓発できる有効な機会です。現在実施している10か月児健康診査での読み聞かせとともに他の乳幼児健康診査でも月齢に合わせたチラシを作成し配布します。

また、各保健センターで実施しているマタニティーサークルや育児サークル、地域で実施している育児サークルなどの機会を捉え、参加者及びその家族に対して、早期から絵本に馴染んでもらうきっかけを提供することで、幅広く読書活動の普及啓発に努めます。



※ マタニティーサークル・ 妊婦と家族のかた等を対象に妊娠や出産に関することを学び、妊婦や産婦同士の交流を図るなどで、前向きに妊娠出産育児に望めることを目的とした教室。
和歌山市では、各保健センターで実施しており、保健指導・栄養指導・歯科指導等を実施。妊婦と先輩ママ・赤ちゃんの交流会も実施しています。

3.2 家庭における子ども読書活動の推進の具体的方策

【具体的取組】

事業名	対象者					担当課	現状と課題		計画		具体的方策
	乳幼児	小学生	中学生	高校生	大人		現状	課題	目標値	目標達成時期	
読書活動推進業「うちどく」のすすめ	○	○	○		○	学校教育課	各幼・小・中学校においてうちどくを推進	「うちどく」図書の実・家庭との連携	うちどく図書貸出目標冊数を各校にて設定	毎年	「うちどく」の一層の広報、家庭と連携したうちどくの推進
子育てひろば・地域子育て支援センター・つどいの広場における絵本の読み聞かせ		○			○	子育て支援課	年間をとおして実施	家庭での読み聞かせに繋がっていない	家庭での読み聞かせの浸透	平成29年度末	読み聞かせの機会を拡充し、家庭での読み聞かせの意識を啓発する
つれもて子育て応援サイト（メール配信）	○	○			○	子育て支援課	新規	図書情報の不足	年4回配信	毎年	推薦図書情報の配信
家庭における子ども読書活動の推進	○				○	保育課	年間をとおして実施	家庭との連携	継続	毎年	絵本を通して親子の絆を深め、読書活動の啓発、絵本の読み聞かせの大切さや成長段階に応じた本の選び方、取り扱い方等について伝える
読み聞かせ事業	○				○	地域保健課	約6割		読み聞かせを聴いた保護者の割合が100%	毎年	10か月児健康診査の機会を捉え、絵本の読み聞かせを実施する
絵本の読み聞かせ普及啓発の強化	○				○	地域保健課	新規	新規	乳幼児健診対象者全員にチラシを配布	毎年	年齢（月齢）に合わせた読み聞かせの啓発チラシを作成し、乳幼児健診対象者に送付するとともにマタニティサークル、育児支援事業・2歳6ヶ月児歯科健診においてチラシを配布し、啓発する

3.3 地域における子ども読書活動の推進の具体的方策

【具体的取組】

事業名	対象者					担当課	現状と課題		計画		具体的方策
	乳幼児	小学生	中学生	高校生	大人		現状	課題	目標値	目標達成時期	
コミュニティセンター図書室における図書充実事業	○	○	○	○	○	生涯学習課	24年4月現在、蔵書数は5館約16万冊(一般書10万冊・児童書6万冊)	蔵書の充実及び古い蔵書の入替	古くなった蔵書を随時入替	毎年	リクエスト本の購入など、ニーズ動向からずれない購入を行なうとともに、ティーンズ向け資料の充実を図る
コミュニティセンター図書室周知事業	○	○	○	○	○	生涯学習課	コミュニティセンター図書室があるという周知が不十分のため利用率が低い	市民図書館と相互利用できるといことが十分に周知不足	市報わかやまに周知のための記事を掲載	毎年	HP掲載情報の充実、市報わかやま告知をはじめとする定期的な広報活動・周辺幼小中学校・保健センターへの広報をする
コミュニティセンター読み聞かせ事業拡充	○	○				生涯学習課	リピーターで固定してしまっている	新規参加者の増加	年間総参加者2,000人	平成29年度末	告知の拡充、新規参加者の確保、読み聞かせ用大型絵本の充実を図る
若竹学級公立図書館活用事業		○				青少年課	7学級		2学級程度の増加	毎年	有効に公立図書館を利用しているケースを各若竹学級指導者に紹介し、学童保育における魅力的な読書環境の提供を推進していく
未就園児に読み聞かせ絵本の貸出し	○				○	保育課	2園	発達に応じた良書を吟味	7園	平成29年度末	親子の絆を深め絵本に親しむきっかけをつくる。子どもの発達段階に応じた良書を提供し、必要に応じて貸出しをする
児童館における読書環境の充実	○	○	○	○		子育て支援課	図書の設定	子どもの読書離れ	読書意識の向上	平成29年度末	読書意欲を促進するために、推薦図書紹介など図書スペースの雰囲気づくりに工夫する

第4章 学校等における子ども読書活動の推進

4.1 現状と課題

(学校教育課)

すべての学習の基礎となる国語の力を育むためには、本に親しみ、心を揺り動かしたり、作品の世界に浸って想像のつばさを広げたりする体験を重ねることが重要です。また、何より読書は、人間や社会、自然についての正しく豊かな見方、考え方、感じ方を身につけさせていきます。

このことから、各学校では、「読書タイム」の設定以外に、読書活動推進のために、「図書の読み聞かせ」「ブックトークの実施」「必読書、推薦図書コーナーの設置」「目標とする読書量の設定」「学校図書館に関する広報活動」「読書感想文コンクールへの参加」など様々な取組を行っています。しかしながら、学校によって取組の状況が異なるのが現状です。この状況を改善していくために、まずは各学校において「学校図書館全体計画」を策定し、学校全体で読書活動を推進していく意識の向上を図っていく必要があります。また、「うちどく」推進モデル校を指定し、子どもの読書活動推進のパイロット校として研究を進め、全市へと普及させていきます。

その一方で、学校図書を充実させるとともに、図書室を魅力あるものにし、子どもが自ら本に手を伸ばす読書環境を創っていくことが重要と考えます。

将来的には、学校図書のデータベース化を進め、子どもが読みたい本を自ら検索できるようにするとともに、スムーズで活発な図書の貸出・返却を可能にし、子どもの読書活動の推進を図っていきたいと考えます。

さらに教職員課と連携し、図書室に読書アドバイザーがいる環境づくりを進めていければと考えます。



(教職員課)

和歌山市内の小中学校には、現在、学校図書館担当職員（学校司書）は配置されていませんが、子ども読書活動を推進し、学校図書館活動の充実に大きな役割を果たす学校図書館担当職員の配置の検討を進めます。

学校図書館担当職員は、次の3つの仕事を担います。

- ① 子どもに本のおもしろさを伝えます。絵本を読み聞かせたり、展示コーナーでお勧めの本を紹介したりして、本と子どもの出会いの場をつくります。
- ② 授業内容と関連した本を子どもに紹介したり、調べ学習に使う本を用意したり、先生たちと連携して、学習内容に興味を持たせる手助けをします。
- ③ 本の貸出しや管理事務を効率的に改善します。

※ ブックトーク… ある一つのテーマにそって、数冊の本を上手に順序よく紹介することをいいます。目的は、その本の面白さを伝え、その本を読みたいという気持ちを起させることです。

(保育課)

保育所では、日常の保育の中に読み聞かせを取り入れ、図書コーナーを設置して子どもが自由に絵本に触れられることができる環境づくりに取り組んでいます。また、一部の保育所で未就園児を対象に絵本の貸し出しを実施していますが、より気軽に利用できる場所になるよう努めるとともに実施園を増やしていくことが必要です。

保護者に対しては、保育所だよりや保育参加、懇談会等の機会を通じて絵本の楽しさや読み聞かせの大切さについて伝え、読書に対する啓発を行うとともに読書活動についての情報提供を行うなど効果的に働きかけ、生涯にわたって継続した読書習慣が身につくよう適切な指導や支援を随時行っていくことが大切です。

4.2 幼稚園・保育所における子ども読書活動の推進の具体的方策

【具体的取組】

事業名	対象者					担当課	現状と課題		計画		具体的方策
	乳幼児	小学生	中学生	高校生	大人		現状	課題	目標値	目標達成時期	
絵本の読み聞かせ	○					学校教育課 保育課	全園	絵本の充実・ 技量の向上	継続	毎年	職員や保護者または、ボランティアによる、読み聞かせ等を実施し、絵本に親しむ機会を設ける
絵本の貸出し	○					学校教育課 保育課	全園	絵本の充実	継続	毎年	子どもの発達段階に応じた良書を、必要に応じて貸出しをする。



4.3 学校における子ども読書活動の推進の具体的方策

【具体的取組】

事業名	対象者					担当課	現状と課題		計画		具体的方策
	乳幼児	小学生	中学生	高校生	大人		現状	課題	目標値	目標達成時期	
読書活動推進事業「うちどく」のすすめ	○	○	○		○	学校教育課	各幼稚園・小学校	「うちどく」図書の充実・家庭との連携	うちどく図書貸出目標冊数を各校にて設定	毎年	「うちどく」ノートの配布 「うちどく」図書の購入 「うちどくのすすめ」広報ちらしの配布 「うちどくの日」普及（毎月第1土曜日） 「うちどく」推進モデル校の指定
読書タイムの充実		○	○			学校教育課	小学校 100% 中学校 50%	読書タイムのための時間の確保	小学校 100% 中学校 100%	平成29年度末	10分から15分程度、朝や昼に時間を設定し、全校一斉に読書に取り組む
学校図書館全体計画の策定		○	○			学校教育課	小学校 58% 中学校 22%	学校教育全体を通じた読書活動計画の推進	小学校 100% 中学校 100%	平成29年度末	各学校において学校図書館全体計画を作成し、子どもの読書活動の推進を図る
ブックトークの実施		○	○			学校教育課	小学校 15% 中学校 6%	読書活動からの発展的活動の取り入れ方	小学校 36.5% 中学校 24.3%	平成29年度末	学習活動のなかへの位置づけの明確化
必読書、推薦図書コーナーの設置	○	○	○	○		学校教育課	小学校 42% 中学校 39%	学校教育全体を通じた読書活動推進の意識向上	小学校 100% 中学校 100%	平成29年度末	各学校において、お薦めの図書を提示し、子どもが自ら本に手を伸ばす環境を創る
目標読書量の設定		○	○	○		学校教育課	小学校 23% 中学校 0%	学校教育全体を通じた読書活動の意識向上	小学校 100% 中学校 100%	平成29年度末	発達に応じ、目標とする読書量を設定し、子どもの読書意欲の向上を図る

事業名	対象者					担当課	現状と課題		計画		具体的方策
	乳幼児	小学生	中学生	高校生	大人		現状	課題	目標値	目標達成時期	
学校図書館に関する広報活動の実施		○	○			学校教育課	小学校 87% 中学校 67%	計画的継続的な発行	小学校 100% 中学校 100%	平成29年度末	学校図書館だよりの発行
読書感想文コンクールの実施及び優秀作品集の発行		○	○			学校教育課	実施中		継続	毎年	読書の励みとして、すべての小中学校児童生徒を対象に実施する
特別非常勤講師配置事業		○	○			教職員課	小学校を中心に実施	より多くの子ども達に読書の楽しさを伝えるべく、有効に活用される必要	継続	毎年	読み聞かせの専門家やグループを招き、読書の楽しさを伝える

第5章 図書館における子ども読書活動の推進

5.1 現状と課題

(市民図書館)

市民図書館では、幼児期に読書の楽しさを知ることが、大人になっても読書習慣を形成する上で重要なことから、児童室で「読み聞かせ」「語りの会」等を行っています。しかしながら、入場者の少ない月もあります。そのため、今後は当該事業を周知し、保護者らが進んで参加してもらえよう、リピーターを増やし、充実した内容にしていきます。

また市民図書館では、保育園、幼稚園、小学校等に1年以内500冊を上限に、団体貸出を実施しています。しかし、団体貸出用の新しい図書の整備が不十分でしたので、今後一層、図書の充実や小学校等へのPRに努め、利用の拡大を図ります。

5.2 図書館における子ども読書活動推進の具体的方策

【具体的取組】

事業名	対象者					担当課	現状と課題		計画		具体的方策
	乳幼児	小学生	中学生	高校生	大人		現状	課題	目標値	目標達成時期	
「この本おもしろいぞ」		○				市民図書館	こども市報に掲載したお薦めの図書を紹介	過去に紹介した図書リスト作りが必要	継続	毎年	過去に紹介した図書のリストを作り、配布する
おはなし会（児童室和室で読み聞かせ、手遊び、紙芝居などを行う）	○	○				市民図書館	年9回	ボランティア団体の確保が必要	継続	毎年	ボランティア団体の育成
語りの会（語りの会メンバーが昔話などを子どもに伝える）	○	○				市民図書館	月1回	参加者の少ない月もある	継続	毎年	広報を再考し、周知する
団体貸出用図書の充実	○	○				市民図書館	利用団体数は9団体	団体や学校への利用促進活動が十分できていない	継続	毎年	学校との連携強化を図り、学校教育を側面から支援することにより、利用の拡大に努める
児童書の充実	○	○				市民図書館	蔵書冊数約12.8万冊	買替え、調べ物図書などが購入できていない	蔵書バランスを考えた収集	毎年	新刊図書を計画的に購入していく
ティーンズ資料の充実			○	○		市民図書館	コーナー未設定	児童室内にコーナーを設けるスペースがない	コーナーを新設	平成29年度末	一般書架にコーナーを設ける

事業名	対象者					担当課	現状と課題		計画		具体的方策
	乳幼児	小学生	中学生	高校生	大人		現状	課題	目標値	目標達成時期	
児童室壁面の展示	○	○	○			市民図書館	季節ごとにテーマを決めて、展示	新たなテーマの不足	継続	毎年	新しく、今までにない特集（児童室お薦め本、新しく入った本）などを掲示していく
市民図書館ホームページ内、こどものへや		○	○			市民図書館	3ヶ月に1回更新	最新の情報が入っていない場合がある	2ヶ月に1回更新	平成25年度末	より見やすく、最新の内容に更新していくよう努める
子どもビデオシアター	○	○	○	○	○	市民図書館	毎月1回	上映できるソフトが少ない	継続	毎年	図書館利用につながるよう、効果的な上映を心がける
親と子のおりがみ教室	○	○			○	市民図書館	毎月1回	季節により、参加者の少ない月がある	継続	毎年	図書館へ来てもらうきっかけ作りとして、広報を再考し、リピーターを定着させる
年代ごとのおすすめ図書リストの配布	○	○	○			市民図書館	新規	児童用のリストだけでなく、年代ごとのリストも必要	年1回	毎年	関係各課と連携し、年代別に適したリストを作成、保育所、幼稚園、小学校、中学校及び保健センターに配布する

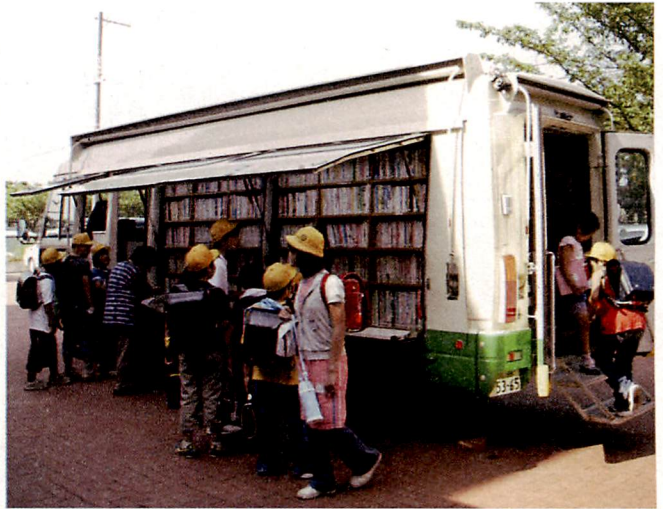
第6章 各関係機関・団体等が連携した子どもの読書活動の推進

6.1 現状と課題

(市民図書館)

市民図書館では、各学校のニーズに応じて利用案内や職場体験を実施しています。今後、さらに、各学校との連携を強化して団体貸出の利用を促進するなど、読書活動の推進をに努め、学校への支援を行います。

また子どもからお年寄りまでを対象に、図書館から遠い地域の小学校、公園等、市内36ヶ所へ2週間に1回移動図書館車が巡回しています。なお一層の利用を促すために、小学校との連携により利用案内等の充実を図り、移動図書館車の巡回が子どもたちの読書活動に役立つよう心掛けていきます。



(生涯学習課)

市民図書館とコミュニティセンター図書室とのより一層の連携が課題であると考えています。

24年度はコミュニティセンター図書室担当者と

市民図書館担当で毎月、図書室運営や図書購入について協議する場を設けています。

今後も、市民図書館主導で和歌山市全体の統一のとれた蔵書収集・構成方針の下、各館の蔵書の特色を作っていくしたいと思います。

(学校教育課)

学校においては、学習活動をより発展させたり深めさせたりするため、子どもの興味や調べ学習のニーズにあった多様な本を準備する必要があります。このため、一層市民図書館との連携を深め、図書館司書から専門性を生かした図書の情報を得たり、団体貸出を利用した適切な本と子どもの出会いを設定したりすることが大切であると考えます。

また、地域人材やボランティア団体の力を学校図書館に取り入れ、図書の整備、児童生徒への読み聞かせ、貸出などを行う「学校図書館ボランティア」の活用も、子どもの読書活動推進のためには重要であると考えます。

平成24年度の学校図書ボランティアの活用状況は、小学校で64%、中学校で17%となっています。今後、「うちどく」の推進とともに、地域・家庭の人材を積極的に学校に取り入れ、三者が連携した子どもの読書活動の推進を図っていきたいと考えます。これが、ひいては家族そろっての市民図書館や各コミュニティセンター図書室の活発な利用につながり、生涯読書の基礎となっていくことを願っています。

6.2 学校と市民図書館の連携

【具体的取組】

事業名	対象者					担当課	現状と課題		計画		具体的方策
	乳幼児	小学生	中学生	高校生	大人		現状	課題	目標値	目標達成時期	
団体貸出用 図書の利用 の充実	○	○	○			市民図書館 学校教育課	図書館の図 書の貸出利 用	学校と市民 図書館の連 携	継続	毎年	学校と市民図書館 のなご一層の連携 を図る
出前講座 (学童保育・ 小学校等へ 職員が出向 き読み聞か せ等を行 う)	○	○	○			市民図書館 学校教育課 青少年課	20回	職員のレベ ルアップ	継続	毎年	和歌山市職員出前 講座にも登録し、 募集する
図書館見学 の受入れ		○				市民図書館 学校教育課	3校	学年に合わ せたプログ ラムが必要	継続	毎年	事前に細かく、学 校と打合せをする
図書館職場 体験の受入 れ			○	○		市民図書館 学校教育課	8校	複数校が同 じ時期に集 中して重複	継続	毎年	貸出、返却だけ でなく、より広い 図書館業務全般 を体験、実習し てもらう
移動図書館 の充実	○	○	○	○	○	市民図書館 学校教育課	市内36ヶ 所、小学校 等を中心に 巡回	巡回地の選 定が難しい	継続	毎年	小学校と連携し、 図書館から遠い子 どもたちに移動 図書館を使った 図書の利用を推 進する



6.3 コミュニティセンターと市民図書館の連携

【具体的取組】

現在、市民図書館とコミュニティセンター図書室の間では、相互利用が可能で、利用者は一枚の利用券でどの場所でも借りることができます。今後、更なる利便性や全市での統一的な蔵書構成方針、各コミュニティセンター図書室の特色などを考え、連携を深めていく必要があります。

また、移動図書館でカバーが来ているものの、図書室空白域が発生していますので、建設費用等課題はありますが、設置の検討をすすめていきます。

事業名	対象者					担当課	現状と課題		計画		具体的方策
	乳幼児	小学生	中学生	高校生	大人		現状	課題	目標値	目標達成時期	
図書館ネットワーク事業	○	○	○	○	○	生涯学習課 市民図書館	コミセン図書室担当者と市民図書館担当者を毎月会議を開催	所管課、所管条例の違い	継続	毎年	蔵書構成方針や、新規図書購入方針のすりあわせなど、定期的な連絡会議の開催を行う
コミュニティセンター図書室拠点増強事業	○	○	○	○	○	生涯学習課	和歌山市河西部と南部地域が図書室空白域	立地の確保、建設費の捻出	空白域に図書室のあるコミュニティセンターを建設		空白域を埋めるべく建設予定地を探し、建設計画を具体的にたてる



6.4 ボランティア団体等との連携

【具体的取組】

現在、読み聞かせ等においてはボランティアグループの協力を得て読み聞かせ会を開催しております。今後、市民図書館やコミュニティセンターで、更なる読書活動の推進のため、NPO等の民間団体や企業ボランティアの協力をあおぐことも視野に入れながら、全市的に読書活動のより一層の推進が展開されるようにする必要があります。

事業名	対象者					担当課	現状と課題		計画		具体的方策
	乳幼児	小学生	中学生	高校生	大人		現状	課題	目標値	目標達成時期	
ボランティアの活用	○	○	○		○	市民図書館 生涯学習課	読み聞かせ ボランティアと連携	ボランティア等の人材の確保	継続	平成29年度末	地域、民間団体や企業によるボランティアの活用をすすめる

学校においては、ボランティアグループの協力を得て読み聞かせ会を開催したり、本の整理や整備を行ったりしています。今後は、この取組を一層推進するため、学校だよりやホームページなどを通じて地域や保護者等に働きかけてボランティアを募り、学校図書館を中心に地域ボランティアや保護者が集い、三者が連携して子どもの読書活動をより活発なものにしていければと考えます。

事業名	対象者					担当課	現状と課題		計画		具体的方策
	乳幼児	小学生	中学生	高校生	大人		現状	課題	目標値	目標達成時期	
学校図書館におけるボランティアの活用	○	○	○		○	学校教育課	活用状況 小学校 64% 中学校 17%	地域ボランティア等の人材の確保	小学校 79% 中学校 24%	毎年	地域、保護者に働きかけ、ボランティアの活用を図る

第7章 まとめ

子どもを取り巻く環境は目まぐるしい速度で変化しており、インターネットをはじめとする情報の多様化を巻き込んでこれからもさらに変化し続けると予想されます。しかし、たとえ「紙の本」というものが将来無くなり、すべて「電子書籍」に代わろうとも、「読書」から学べることの大切さ、読書の楽しさ、素晴らしさは変わることがありません。

和歌山市では、この子ども読書活動推進計画をきっかけに、庁内関係各課と連携し、また将来的には生涯学習・社会教育やボランティアの団体や民間企業との連携も視野に入れながら、子どもたちが楽しんで、継続的に読書に向かえる態勢を作るべく、読書活動について推進を進めていきたいと思っております。

和歌山市子ども読書活動推進計画

アンケート・資料編

アンケート調査の概要

◆ 児童・生徒を対象としたアンケート

- アンケート内容…家庭・学校図書館・図書館での読書の現状について
- 実施時期…平成24年7月
- 調査方法…市内の小学校12校と、中学校3校を地域のバランスがとれるように抽出し、対象となった学校の児童・生徒に対し、調査票を配布した。
- 対象…市内の抽出した学校の小学2年生・小学5年生・中学2年生回収数は、次のとおり。

【小学2年生】	回収数
A校	132
B校	46
C校	57
D校	52
E校	58
F校	63
計	408

【小学5年生】	回収数
G校	97
H校	35
I校	62
J校	30
K校	73
L校	87
計	384

【中学2年生】	回収数
M中学校	127
N中学校	151
O中学校	193
計	471

◆ 乳幼児の保護者を対象としたアンケート

- アンケート内容…家庭・図書館での読書の現状について
- 実施時期…平成24年7月～8月
- 調査方法…保健センターで行う1歳6か月児健診と3歳児健診(7月と8月実施分)に訪れた保護者に対し、調査票を配布した。
- 対象…市内の全保健センター(中・西・南・北)の1歳6か月児健診と3歳児健診(7月と8月実施分)に訪れた保護者。回収数は次のとおり。

乳幼児保護者	1歳半	3歳	合計
中保健センター	77	76	153
西保健センター	68	54	122
南保健センター	18	24	42
北保健センター	44	47	91
合計	207	201	408

小・中学生アンケート調査表

【小学2年生】

子どもの読書活動に関するアンケート調査

性別 1. 男 2. 女

- このアンケートは、みなさんの読書活動を推進するために行うものです。
- アンケートは表裏1枚分あります。質問をよく読んで、最後まで答えてください。
- ここでの「本」とは、まんがやざっし、教科書を除いたものとします。
- 次の質問であてはまる番号に○をつけてください。

1 あなたのふだんの読書の様子についてお聞きします。

問1 あなたは、本（まんがやざっし、教科書は除きます）を読むのが好きですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

- ① 好き
- ② どちらでもない
- ③ きらい

問2 あなたは、1か月に本（まんがやざっし、教科書は除きます）を何冊ぐらい読みますか。

- ① 10冊以上
 - ② 7～9冊
 - ③ 4～6冊
 - ④ 1～3冊
 - ⑤ ほとんど読まない
- 問3へ
- 問4へ

問3 【本を読む人にお聞きします】あなたが本を読むようになったきっかけは何ですか。あてはまるものを3つまで○をつけてください。

- ① 家で本を読んでもらったから
- ② 家に本がたくさんあったから
- ③ 家族が本を読んでいたから
- ④ 図書館へ行くようになったから
- ⑤ 学校の図書館を使うようになったから
- ⑥ 家族がすすめてくれたから
- ⑦ 友だちがすすめてくれたから
- ⑧ 学校の先生がすすめてくれたから
- ⑨ おぼえていない
- ⑩ その他【できるだけくわしく：】

うらへつづく

子どもの読書活動に関するアンケート調査

- このアンケートは、みなさんの読書活動を推進するために行うものです。
- アンケートは表裏2枚分あります。質問をよく読んで、最後まで答えてください。
- ここでの「本」とは、まんがや雑誌、教科書を除いたものとします。
- 次の質問であてはまる番号に○をつけてください。

1 はじめに、あなたのことについてお聞きします。

問1 性別をお答えください。

① 男

② 女

問2 あなたの学年をお答えください。

① 小学5年生

② 中学2年生

2 あなたのふだんの読書の様子についてお聞きします。

問3 あなたは、本（まんがや雑誌、教科書は除きます）を読むのが好きですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

① とても好き

② 好き

③ どちらでもない

④ あまり好きでない

⑤ きらい

問4 あなたは、1か月に本（まんがや雑誌、教科書は除きます）を何冊ぐらい読みますか。

① 10冊以上

② 7～9冊

③ 4～6冊

④ 1～3冊

⑤ ほとんど読まない

問5へ

問6へ

問5 【本を読む人にお聞きします】あなたが本を読むようになったきっかけは何ですか。あてはまるものを3つまで○をつけてください。

① 家で本を読んでもらったから

② 家に本がたくさんあったから

③ 家族が本を読んでいたから

④ 図書館へ行くようになったから

⑤ 学校の図書館を使うようになったから

⑥ 家族がすすめてくれたから

⑦ 友だちがすすめてくれたから

⑧ 学校の先生がすすめてくれたから

⑨ おぼえていない

⑩ その他【できるだけくわしく：

】

問11 あなたはどんなときに学校の図書室を利用しますか。最もあてはまるもの1つに○をつけてください。

- | | |
|---|----------|
| ① 調べ学習をする | ② 本を読む |
| ③ 本を借りる | ④ 友達との交流 |
| ⑤ その他【できるだけくわしく： 】 | |

4 学校以外の図書館などの利用についてお聞きします。

問12 あなたは、学校以外の図書館や図書室などを利用したことがありますか。利用したことがある施設すべてに○をつけてください。

- | | |
|-------------------|----------------------|
| ① 市民図書館 | ② 移動図書館 |
| ③ 東部コミュニティセンター図書室 | ④ 河南コミュニティセンター図書室 |
| ⑤ 河北コミュニティセンター図書室 | ⑥ 中央コミュニティセンター図書室 |
| ⑦ 北コミュニティセンター図書室 | ⑧ 県立図書館(志学館) |
| ⑨ その他の図書館 | ⑩ 利用したことはあるが名前はわからない |
| → 問14へ | |
| ⑪ どれも利用したことがない | → 問13へ |

問13 【図書館などの施設を利用したことがない人にお聞きします】

図書館などの施設を利用したことがない理由は何ですか。あてはまるものを3つまで○をつけてください。

- | | |
|---|-------------------|
| ① 読みたい本がない | ② 勉強に必要な本がない |
| ③ 図書館などに行く時間がない | ④ 図書館などの使い方がわからない |
| ⑤ 本は買って読む | ⑥ 学校図書室を使っている |
| ⑦ 図書館などが近くにない | |
| ⑧ その他【できるだけくわしく： 】 | |

問14 あなたは、図書館などの施設で1か月に何冊ぐらい本を借りていますか。

- | | |
|------------|--------|
| ① 10冊以上 | ② 7～9冊 |
| ③ 4～6冊 | ④ 1～3冊 |
| ⑤ ほとんど借りない | |

問15 あなたは、図書館などの施設をどんなときに利用しますか。最もあてはまるもの1つに○をつけてください。

- | | |
|------------------|--------------|
| ① 調べ学習をする | ② 本を読む |
| ③ 本を借りる | ④ 友達との交流 |
| ⑤ 行事に参加する | ⑥ インターネットをする |
| ⑦ その他【できるだけくわしく： | 】 |

5 読書に対する考え方についてお聞きします。

問16 あなたは、自分の読書の量についてどう思いますか。

- | | |
|-----------------------|------------------|
| ① たくさん本を読んでいると思う | ② まあまあ本を読んでいると思う |
| ③ もっと本を読んだ方がよいと思う | |
| ④ あまり読んでいないが、それでよいと思う | |
| ⑤ 他のことに時間を使うべきだと思う | ⑥ わからない |
| ⑦ その他【できるだけくわしく： | 】 |

アンケートはこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。

乳幼児アンケート調査表

【1歳6ヶ月】

子どもの読書活動に関するアンケート調査

1歳6か月児健診受診児の保護者対象

- このアンケートは、和歌山市の子どもの読書活動を推進するために行うものです。
保護者の皆さまの考え方をお聞かせください。
●調査票をよく読んで、記入漏れのないようにお願いいたします。
●回答をご記入の上、健診時に提出してください。
●次の質問ではまる番号に○をつけてください。

問1 あなたの年齢についてお尋ねします。

- ① 10歳代 ② 20歳代 ③ 30歳代 ④ 40歳以上

問2 あなたとお子様との続柄についてお尋ねします。

- ① 父 ② 母 ③ 祖父 ④ 祖母
⑤ その他【具体的に：

】

問3 あなたのご家庭ではお子様に1週間のうちどれくらい絵本を読んであげますか。

- ① ほとんど毎日 ② 4～6日 ③ 1～3日 ④ ほとんど読まない

※①～③と答えた方は問4・問5・問6・問7に、④と回答された方は問8にお進みください。

問4 問3で①～③「絵本を読んでいる」と答えた方にお聞きします。

お子様に絵本を読んであげる時間帯は、主にいつですか。(最もあてはまるものを1つ選択)

- ① 午前中 ② 午後 ③ 夕食後 ④ 寝る前
⑤ 子どもが読んで欲しがる時 ⑥ 特に決まっていない
⑦ その他【具体的に：

】

問5 問3で①～③「絵本を読んでいる」と答えた方にお聞きします。

絵本を選ぶ際にどのようなことを参考にしていますか。(あてはまるものを3つまで選択)

- ① 家族、知人のすすめ ② 本や雑誌の情報
③ インターネットの情報 ④ 保育園、幼稚園からのすすめ
⑤ 子どもが好きそうなもの ⑥ 保健センターでのすすめ
⑦ 図書館などでのおすすめ ⑧ 子どもの成長に役立つようなもの
⑨ 自分が読みたいと思うもの ⑩ 自分が子どもの頃読んだもの
⑪ その他【具体的に：

】

問6 問3で①～③「絵本を読んでいる」と答えた方にお聞きします。

お子様に絵本を読んであげる理由やきっかけは何ですか。(あてはまるものを3つまで選択)

- ① 読むと子どもが喜ぶから ② 読んであげるのが好きだから
③ 子どもとのスキンシップのため ④ 子どもの成長の促進のため
⑤ 10か月児健診で読み聞かせの大切さを知ったから
⑥ 図書館やコミュニティセンターなどの読み聞かせの会に参加したから
⑦ 読み聞かせの良さを知ったから

どのような方法で知ったのかを下記からお選びください。(複数回答可)

- i. テレビ ii. 本 iii. 雑誌
iv. 知人 v. 講演会など vi. 保育園、幼稚園
vii. 図書館、コミュニティセンター、保健センターなどの配布物
viii. その他【具体的に：

】

- ⑧ その他【具体的に：

】

問7 問3で①～③「絵本を読んでいる」と答えた方にお聞きします。

初めての読み聞かせはいつ頃ですか。

- ① 妊娠中 ② 6か月未満 ③ 6か月～1歳 ④ 1歳～1歳6か月
⑤ 1歳6か月～2歳 ⑥ 覚えていない

問 8 問3で④「ほとんど読まない」と答えた方にお聞きます。
お子様に絵本をほとんど読まない理由は何ですか。(あてはまるものを3つまで選択)

- ① 子どもがすぐに飽きるから ② 読むのが面倒だから
- ③ 忙しくて読む時間がないから ④ 読み聞かせの良さがわからないから
- ⑤ 子どもが一人で読んでいるから ⑥ 自分自身が絵本に興味がないから
- ⑦ どんな絵本を読めばいいかわからないから
- ⑧ その他【具体的に：

】

問 9 絵本を読むきっかけとしてどのようなことがあれば良いと思いますか。
(あてはまるものを3つまで選択)

- ① 推薦図書リストの配布 ② 絵本の配布
- ③ 読み聞かせの会の回数を増やす ④ 気軽に行ける場所で読み聞かせの会がある
- ⑤ 親同士の情報共有・交換 ⑥ 読み聞かせたいような絵本を図書館等に増やす
- ⑦ 読み聞かせの大切さや方法を聞ける機会がある
- ⑧ その他【具体的に：

】

問 10 あなたは10か月児健診の時に、絵本の読み聞かせについて聞きましたか。

- ① はい ② いいえ

問 11 問10で①「はい」と答えた方にお聞きます。

絵本の読み聞かせについて聞いて、何か変化はありましたか。(複数回答可)

- ① 自分が絵本に興味を持つようになった ② 子どもが絵本に興味を持つようになった
- ③ 図書館などで絵本を借りるようになった ④ 絵本を買うようになった
- ⑤ 読み聞かせ会に参加するようになった ⑥ 家庭で絵本を読み聞かせるようになった
- ⑦ 前から読み聞かせを行っているので特に変化はない ⑧ 特に変化はない
- ⑨ その他【具体的に：

】

問 12 あなたは、図書館などを利用していますか。利用する施設すべてに○をつけてください。

- ① 市民図書館 ② 東部コミュニティセンター図書室
- ③ 河南コミュニティセンター図書室 ④ 河北コミュニティセンター図書室
- ⑤ 中央コミュニティセンター図書室 ⑥ 北コミュニティセンター図書室
- ⑦ 県立図書館(きのくに志学館) ⑧ その他の図書館
- ⑨ 利用するが名前はわからない ⑩ どれも利用していない

※①～⑨と答えた方は問14へ、⑩と答えた方は問13へ進んでください。

問 13 問12で⑩「どれも利用していない」と答えた方にお聞きます。

図書館などの施設を利用しない理由は何ですか。(あてはまるものを3つまで選択)

- ① 読みたい本がないから ② 子どもに読ませたい本がないから
- ③ 図書館などに行く時間がないから ④ 子どもを連れて行くのが大変だから
- ⑤ 本は買って読むから ⑥ 図書館などが近くにないから
- ⑦ 授乳室や、子どもを遊ばせるスペースなどの環境が整っていないから
- ⑧ その他【具体的に：

】

問 14 あなた自身は、本を読むのが好きですか。

- ① 好き ② どちらかといえば好き
- ③ どちらかといえば嫌い ④ 嫌い

問 15 あなた自身は、子どもの頃家庭で絵本の読みかきかせをしてもらいましたか。

- ① はい ② いいえ ③ 覚えていない

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

子どもの読書活動に関するアンケート調査

3歳児健診受診児の保護者対象

- このアンケートは、和歌山市の子どもの読書活動を推進するために行うものです。
保護者の皆さまの考え方をお聞かせください。
- 調査票をよく読んで、記入漏れのないようにお願いいたします。
- 回答をご記入の上、健診時に提出してください。
- 次の質問ではまる番号に○をつけてください。

- 問1 あなたの年齢についてお尋ねします。
① 10歳代 ② 20歳代 ③ 30歳代 ④ 40歳以上
- 問2 あなたとお子様との続柄についてお尋ねします。
① 父 ② 母 ③ 祖父 ④ 祖母
⑤ その他【具体的に： _____】
- 問3 あなたのご家庭ではお子様に1週間のうちどれくらい絵本を読んであげますか。
① ほとんど毎日 ② 4～6日 ③ 1～3日 ④ ほとんど読まない
※①～③と答えた方は問4・問5・問6・問7に、④と回答された方は問8にお進みください。
- 問4 問3で①～③「絵本を読んでいる」と答えた方にお聞きします。
お子様に絵本を読んであげる時間帯は、主にいつですか。(最もあてはまるものを1つ選択)
① 午前中 ② 午後 ③ 夕食後 ④ 寝る前
⑤ 子どもが読んで欲しがる時 ⑥ 特に決まっていない
⑦ その他【具体的に： _____】
- 問5 問3で①～③「絵本を読んでいる」と答えた方にお聞きします。
絵本を選ぶ際にどのようなことを参考にしていますか。(あてはまるものを3つまで選択)
① 家族、知人のすすめ ② 本や雑誌の情報
③ インターネットの情報 ④ 保育園、幼稚園からのすすめ
⑤ 子どもが好きそうなもの ⑥ 保健センターでのすすめ
⑦ 図書館などでのおすすめ ⑧ 子どもの成長に役立つようなもの
⑨ 自分が読みたいと思うもの ⑩ 自分が子どもの頃読んだもの
⑪ その他【具体的に： _____】
- 問6 問3で①～③「絵本を読んでいる」と答えた方にお聞きします。
お子様に絵本を読んであげる理由やきっかけは何ですか。(あてはまるものを3つまで選択)
① 読むと子どもが喜ぶから ② 読んであげるのが好きだから
③ 子どもとのスキンシップのため ④ 子どもの成長の促進のため
⑤ 図書館やコミュニティセンターなどの読み聞かせの会に参加したから
⑥ 読み聞かせの良さを知ったから
どのような方法で知ったのかを下記からお選びください。(複数回答可)
i. テレビ ii. 本 iii. 雑誌
iv. 知人 v. 講演会など vi. 保育園、幼稚園
vii. 図書館、コミュニティセンター、保健センターなどの配布物
viii. その他【具体的に： _____】
⑦ その他【具体的に： _____】
- 問7 問3で①～③「絵本を読んでいる」と答えた方にお聞きします。
初めての読み聞かせはいつ頃ですか。
① 妊娠中 ② 6か月未満 ③ 6か月～1歳 ④ 1歳～1歳6か月
⑤ 1歳6か月～2歳 ⑥ 2歳～3歳 ⑦ 3歳～4歳 ⑧ 覚えていない

裏へ続く

問8 問3で④「ほとんど読まない」と答えた方にお聞きます。
お子様に絵本をほとんど読まない理由は何ですか。(あてはまるものを3つまで選択)

- ① 子どもがすぐに飽きるから
- ② 読むのが面倒だから
- ③ 忙しくて読む時間がないから
- ④ 読み聞かせの良さがわからないから
- ⑤ 子どもが一人で読んでいるから
- ⑥ 自分自身が絵本に興味がないから
- ⑦ どんな絵本を読めばいいかわからないから
- ⑧ その他【具体的に：

]

問9 絵本を読むきっかけとしてどのようなことがあれば良いと思いますか。
(あてはまるものを3つまで選択)

- ① 推薦図書リストの配布
- ② 絵本の配布
- ③ 読み聞かせの会の回数を増やす
- ④ 気軽に行ける場所で読み聞かせの会がある
- ⑤ 親同士の情報共有・交換
- ⑥ 読み聞かせたいような絵本を図書館等に増やす
- ⑦ 読み聞かせの大切さや方法を聞ける機会がある
- ⑧ その他【具体的に：

]

問10 あなたは、図書館などを利用していますか。利用する施設すべてに○をつけてください。

- ① 市民図書館
- ② 東部コミュニティセンター図書室
- ③ 河南コミュニティセンター図書室
- ④ 河北コミュニティセンター図書室
- ⑤ 中央コミュニティセンター図書室
- ⑥ 北コミュニティセンター図書室
- ⑦ 県立図書館(きのくに志学館)
- ⑧ その他の図書館
- ⑨ 利用するが名前はわからない
- ⑩ どれも利用していない

※①～⑧と答えた方は問12へ、⑩と答えた方は問11へ進んでください。

問11 問10で⑩「どれも利用していない」と答えた方にお聞きます。
図書館などの施設を利用しない理由は何ですか。(あてはまるものを3つまで選択)

- ① 読みたい本がないから
- ② 子どもに読ませたい本がないから
- ③ 図書館などに行く時間がないから
- ④ 子どもを連れて行くのが大変だから
- ⑤ 本は買って読むから
- ⑥ 図書館などが近くにないから
- ⑦ 授乳室や、子どもを遊ばせるスペースなどの環境が整っていないから
- ⑧ その他【具体的に：

]

問12 あなた自身は、本を読むのが好きですか。

- ① 好き
- ② どちらかといえば好き
- ③ どちらかといえば嫌い
- ④ 嫌い

問13 あなた自身は、子どもの頃家庭で絵本の読みきかせをしてもらいましたか。

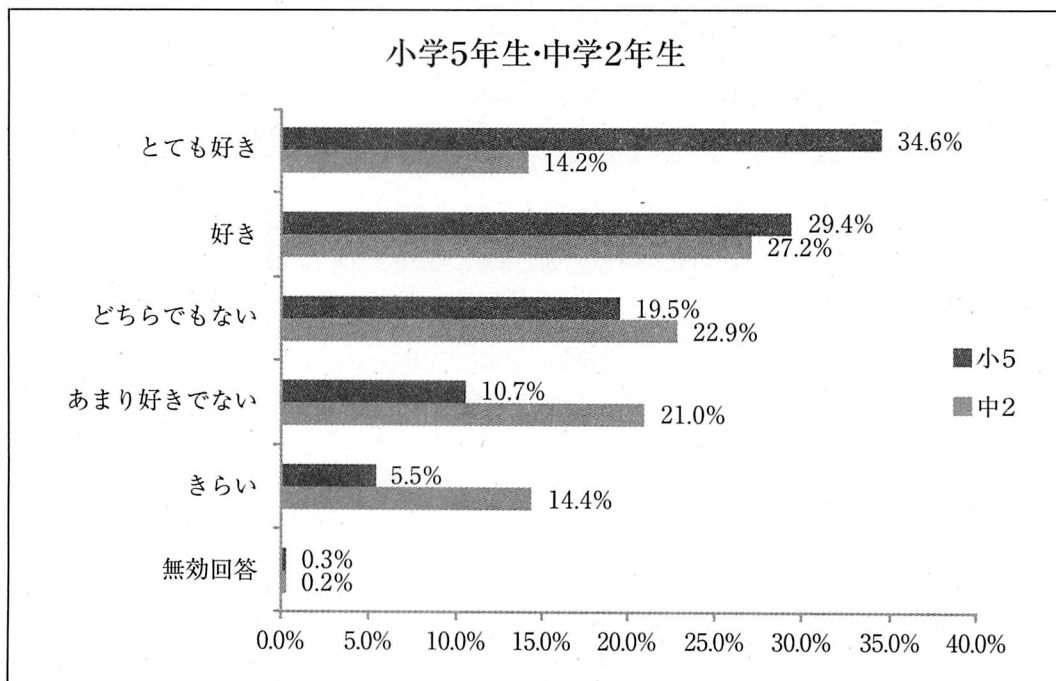
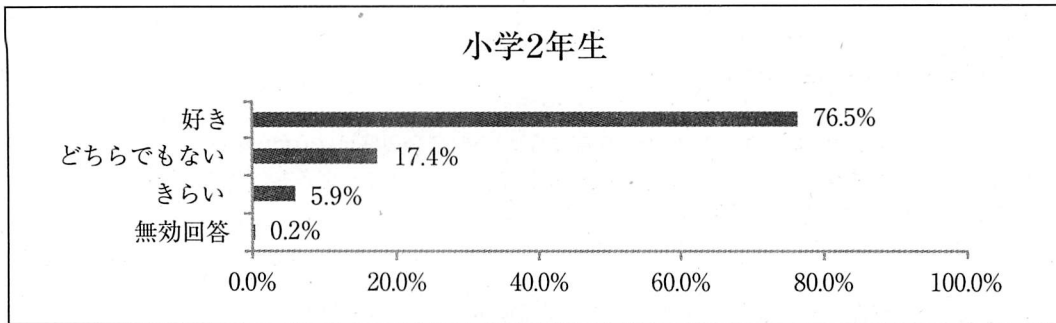
- ① はい
- ② いいえ
- ③ 覚えていない

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

小・中学生アンケート調査結果

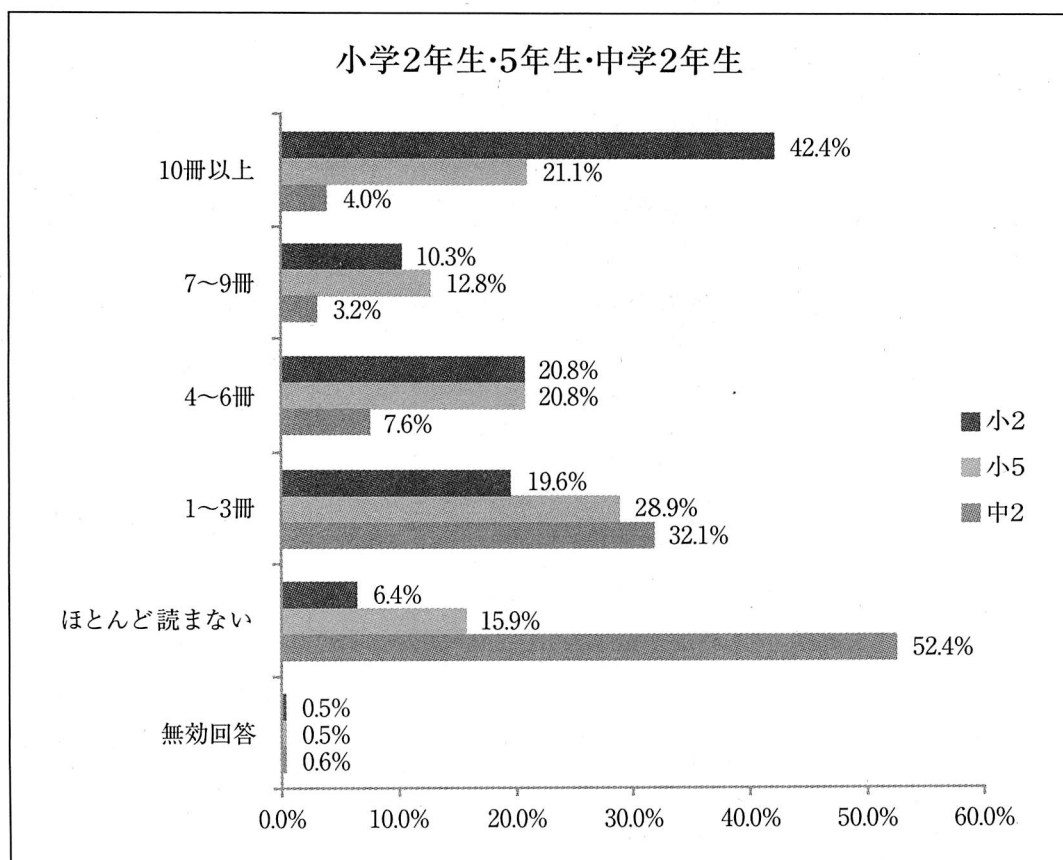
(1) 子どもの普段の読書の様子

問：あなたは、本（まんがやざっし、教科書は除きます）を読むのが好きですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。



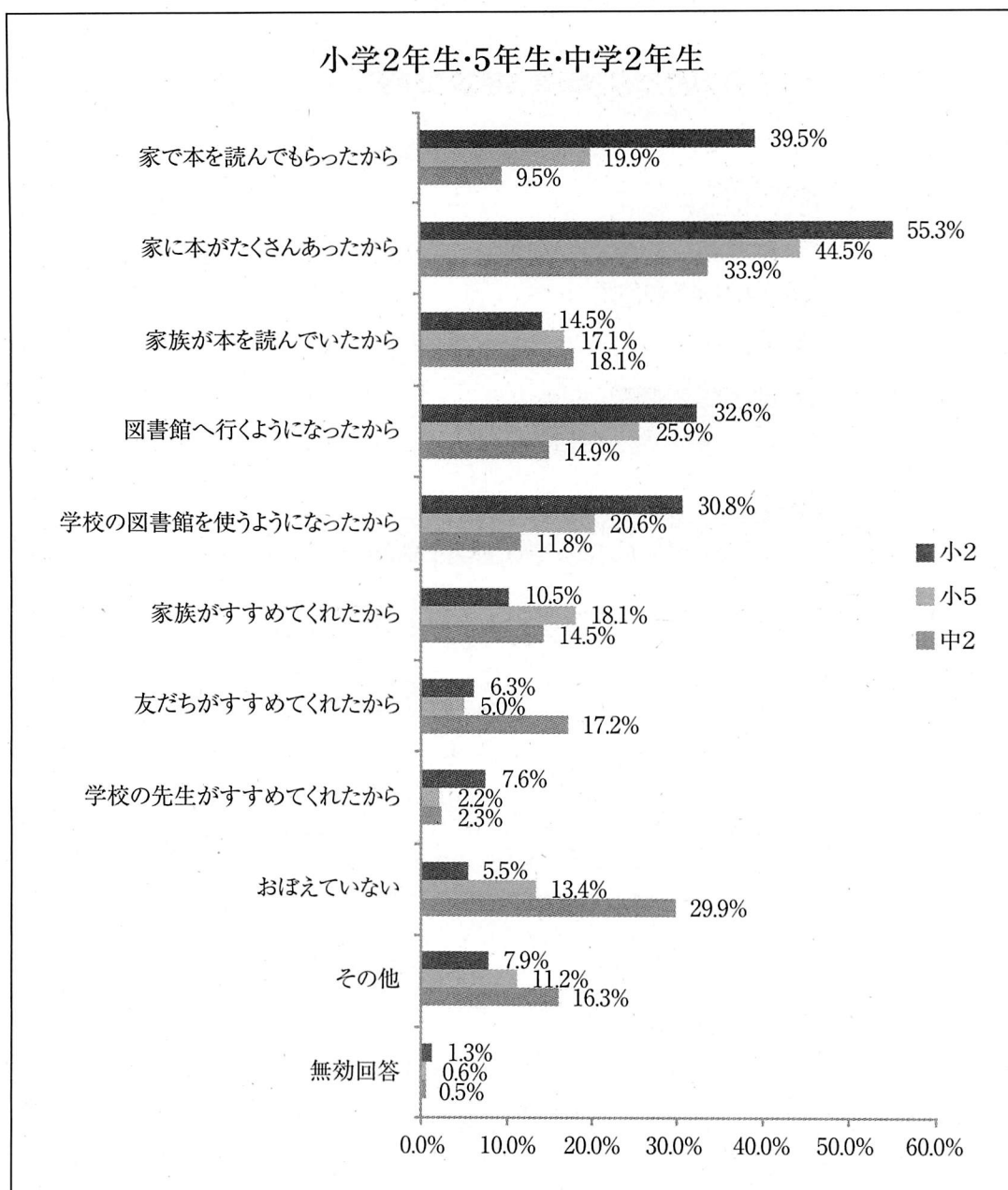
小学2年生、5年生とも7割近くの児童が、読書について「とても好き」もしくは「好き」と回答しているのに対し、中学2年生は5割以下となり、「きらい」と答える生徒の割合も14.4%と、比較的多くなっている。

問：あなたは、1か月に本（まんがやざっし、教科書は除きます）を何冊ぐらい読みますか。



1か月の読書冊数は、10冊以上読む児童・生徒が小学2年生では42.4%と多くいるものの、5年生では21.1%、中学2年生では4.0%と学年が上がるごとに急激に少なくなっている傾向が著しい。さらに中学2年生では半数以上の生徒が本をほとんど読んでいないと回答している。

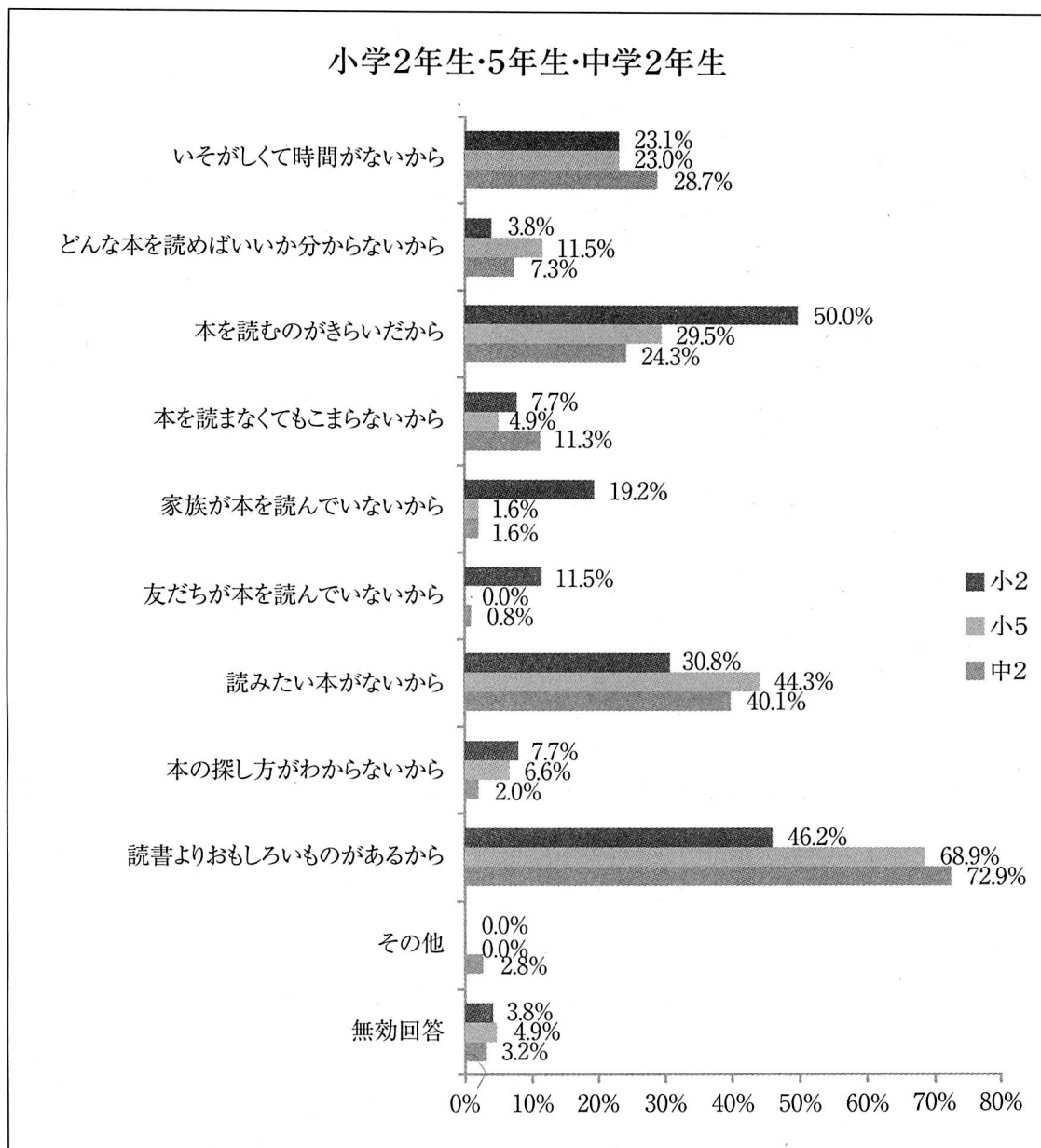
問：【本を読む人にお聞きします】あなたが本を読むようになったきっかけは何ですか。あてはまるものを3つまで○をつけてください。



1か月に1冊以上本を読むと回答した児童・生徒に、そのきっかけを尋ねたところ、3学年とも「家に本がたくさんあったから」との回答が最も多くなった。小学2年生では次いで「家で本を読んでもらったから」「図書館へ行くようになったから」との回答が多く、5年生では「図書館へ行くようになったから」「学校の図書館を使うようになったから」、中学2年生では「おぼえていない」を除くと「家族が本を読んでいたから」「友だちがすすめてくれたから」の順になっている。

この結果から、家庭での読書環境が児童・生徒の読書活動に最も影響を与えること、その他に図書館へ行くことや、友人など周りの環境も及ぼす影響が大きいことがわかった。よって、児童・生徒の読書活動推進のためには家庭で本に触れやすい環境づくりや、学校図書室を含め図書館へ行きやすい環境づくりが不可欠であることがわかった。

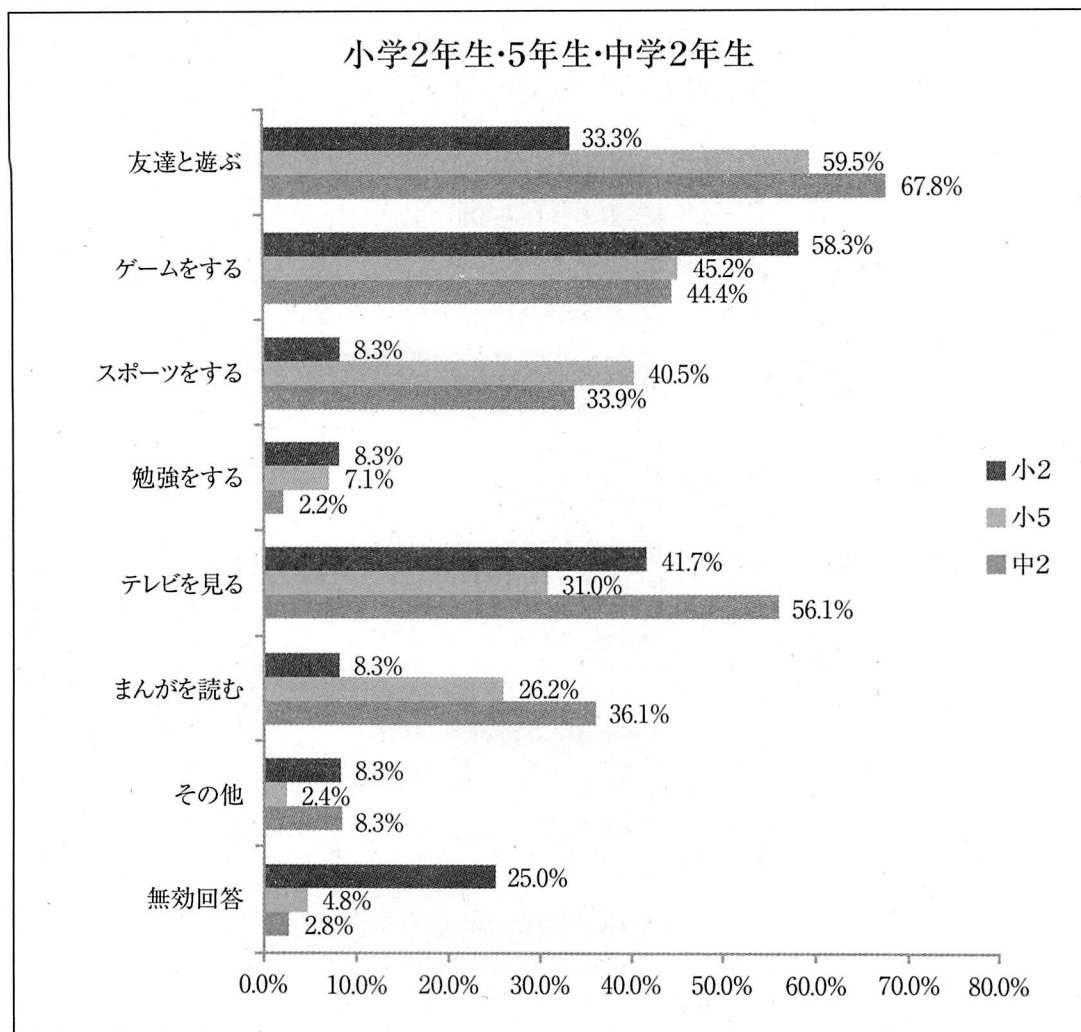
問：【本を読まない人にお聞きします】本をほとんど読まない理由は何ですか。あてはまるものを3つまで○をつけてください。



1か月に本をほとんど読まないと回答した児童・生徒にその理由を尋ねたところ、小学2年生では半数が「本を読むのが嫌いだから」と回答しており、最も多かった。小学5年生・中学2年生ではともに7割近くが「読書よりおもしろいものがあるから」と回答し、最も多くなっている。

この結果から、児童・生徒の読書活動を推進するために、読書に対する苦手意識を失くし、読書のおもしろさを知ってもらうよう子どもたちに働きかけることが特に必要であることがわかった。

どんなことがおもしろいと感じますか。3つまで○をつけてください。

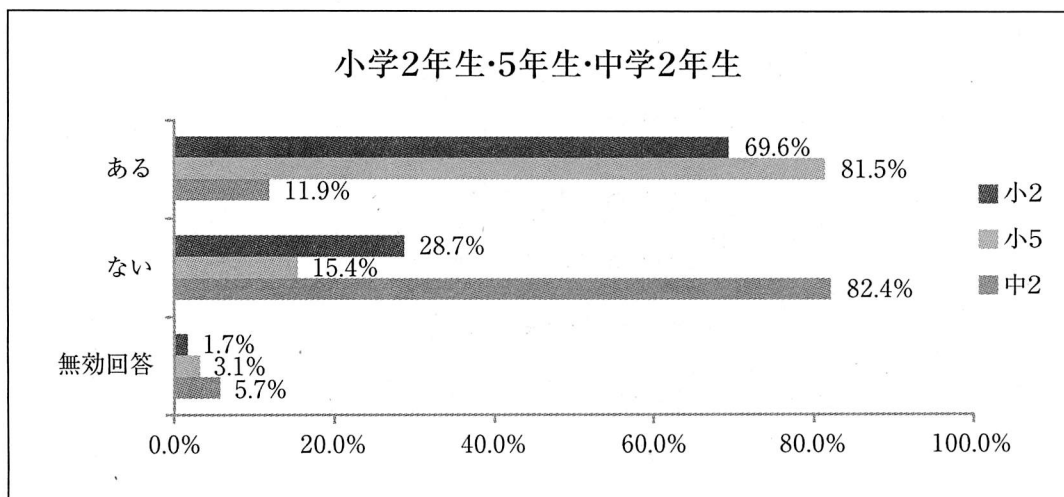


前問で「読書よりおもしろいものがあるから」と回答した児童・生徒にどんなことがおもしろいと感じるか尋ねたところ、小学2年生では「ゲームをする」との回答が最も多く、小学5年生・中学2年生では「友達と遊ぶ」との回答が最も多くなった。

この結果から、読書において、ゲームやテレビなどとは異なるおもしろさを発見させることや、友達と遊ぶ時間を持ちながらも、夜など友達と遊べない時間に読書の時間を確保するような読書習慣を身につけさせることが効果的であることがわかった。

(2) 子どもの学校での読書の様子

問：あなたのクラスでは授業の前に読書の時間（読書タイムなど）がありますか。ある場合は何分くらいですか。



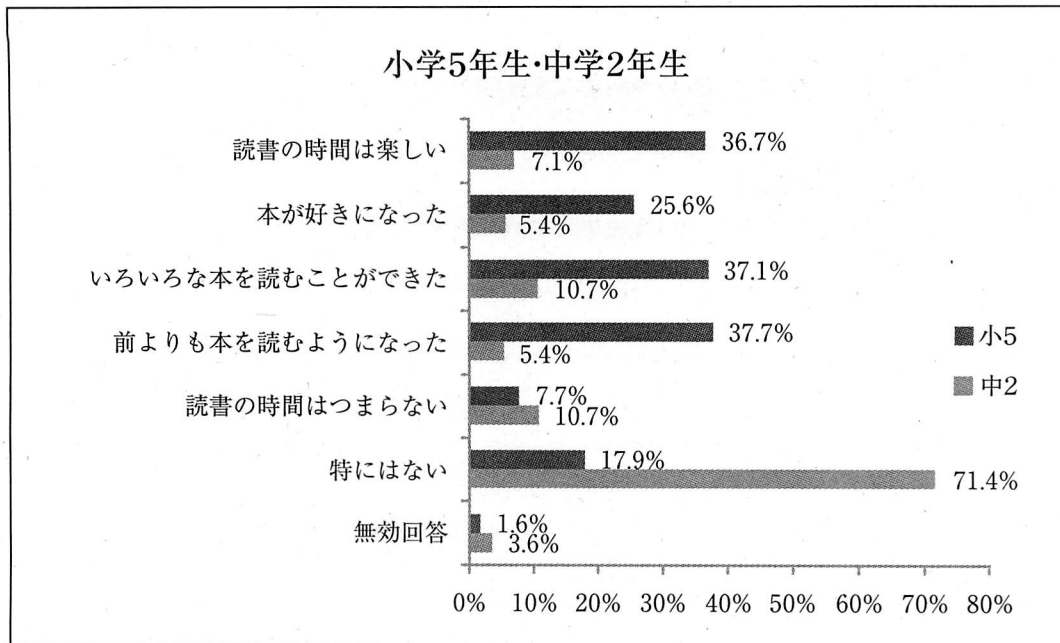
小学2年生・5年生ともに7割、8割近くが「読書タイムなどがある」と回答しているのに対し、中学2年生は1割近くと低い。

※ ただし、市内小学校においては、「授業の前」と限定せずに、昼休憩や、授業前などの学校ごとの都合のよい時間帯で読書タイムを設けているかという調査では、全ての小学校の全学年で実施されているという結果が出ている。

※小学5年生・中学2年生のみ

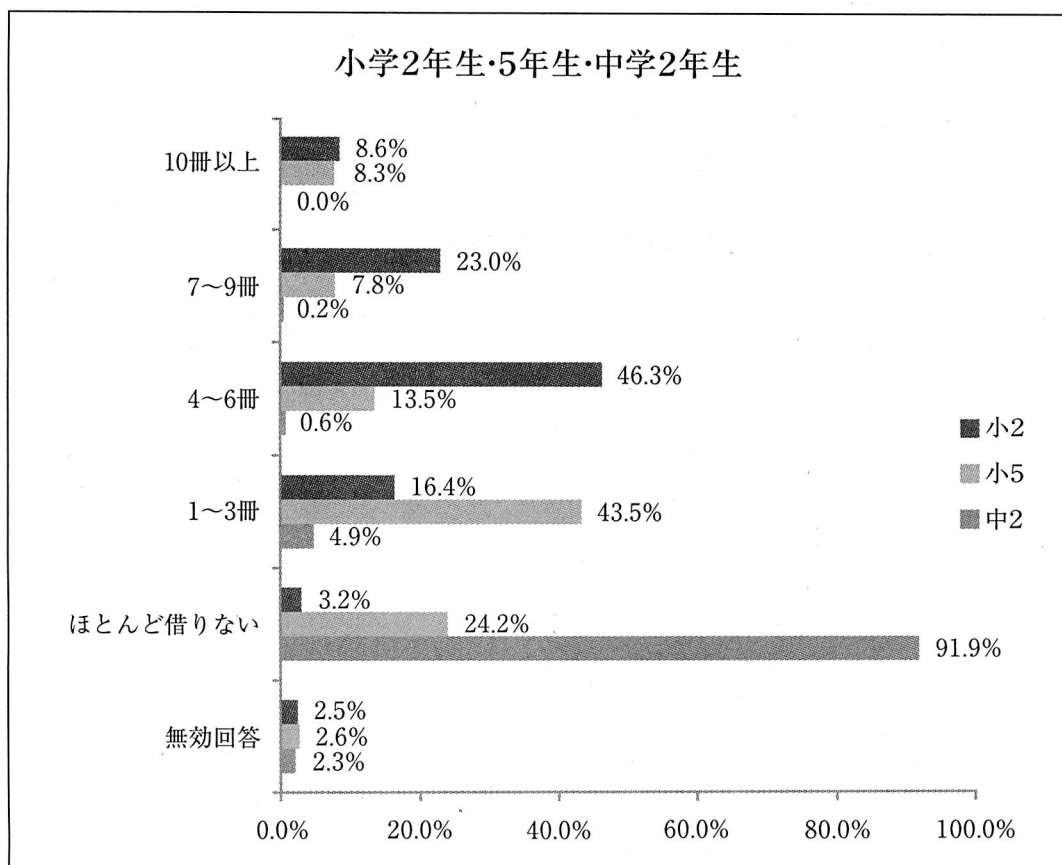
問：【クラスで読書の時間がある人にお聞きします】

読書の時間（朝の読書など）によって、何か変わったことや感じていることはありますか。あてはまるものを3つまで○をつけてください。



小学5年生、中学2年生を対象に前問で「読書タイムなどがある」と回答した児童・生徒にその影響について調査したところ、5年生は「読書の時間は楽しい」「色々な本を読むことができた」「前よりも本を読むようになった」といずれも意欲的な児童が多数を占めているのに対し、中学2年生は、「特にはない」と7割近くの生徒が変化を感じていないことがわかった。

問：あなたは学校の図書室で、1か月に何冊ぐらいの本を借りますか。

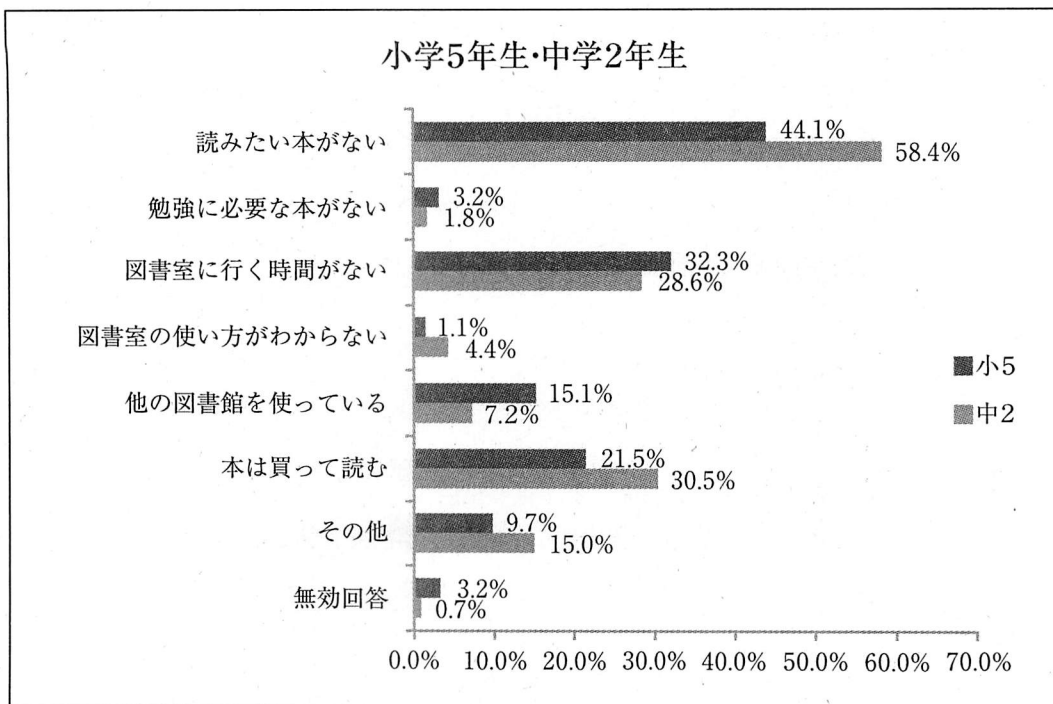


1か月に学校の図書室で借りる本の冊数は、小学2年生では「4～6冊」の児童が4割以上と最も多く、小学5年生では「1～3冊」の児童が4割以上と最も多く、中学2年生は9割以上がほとんど借りていないことがわかった。読書冊数と同様に、学年が上がるごとに借りる冊数が減少する傾向があり、特に中学に上がるとほとんどの生徒が本を借りていないという問題があることがわかった。

※小学5年生・中学2年生のみ

問：【学校の図書室で本を借りない人にお聞きします】

学校の図書室で本を借りない理由は何ですか。あてはまるものを3つまで○をつけてください。

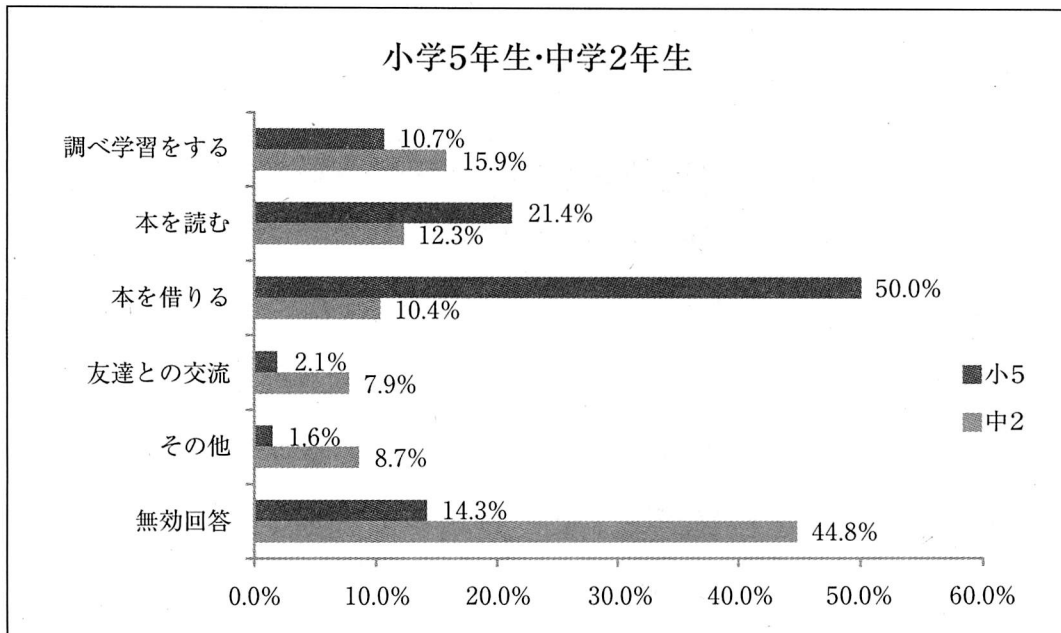


小学5年生、中学2年生を対象に前問で、図書室で本を「ほとんど借りない」と回答した児童・生徒にその理由を尋ねたところ、小学5年生・中学2年生ともに「読みたい本がない」と答えた生徒が最も多く、次いで「図書室に行く時間がない」「本は買って読む」との回答が多くなった。

この結果から、「生徒・児童に読んでほしい本」と「生徒・児童が読みたいと思う本」のギャップを埋めるべく、多様な個性に対応したニーズを捉えた質と量の充実を図る必要があることが分かる。また、図書室の開館時間の拡大や積極的に本の面白さを伝えるなど、生徒が気軽に図書室を訪れられる環境づくりも必要である。

※小学5年生・中学2年生のみ

問：あなたはどんなときに学校の図書室を利用しますか。最もあてはまるもの1つに○をつけてください。

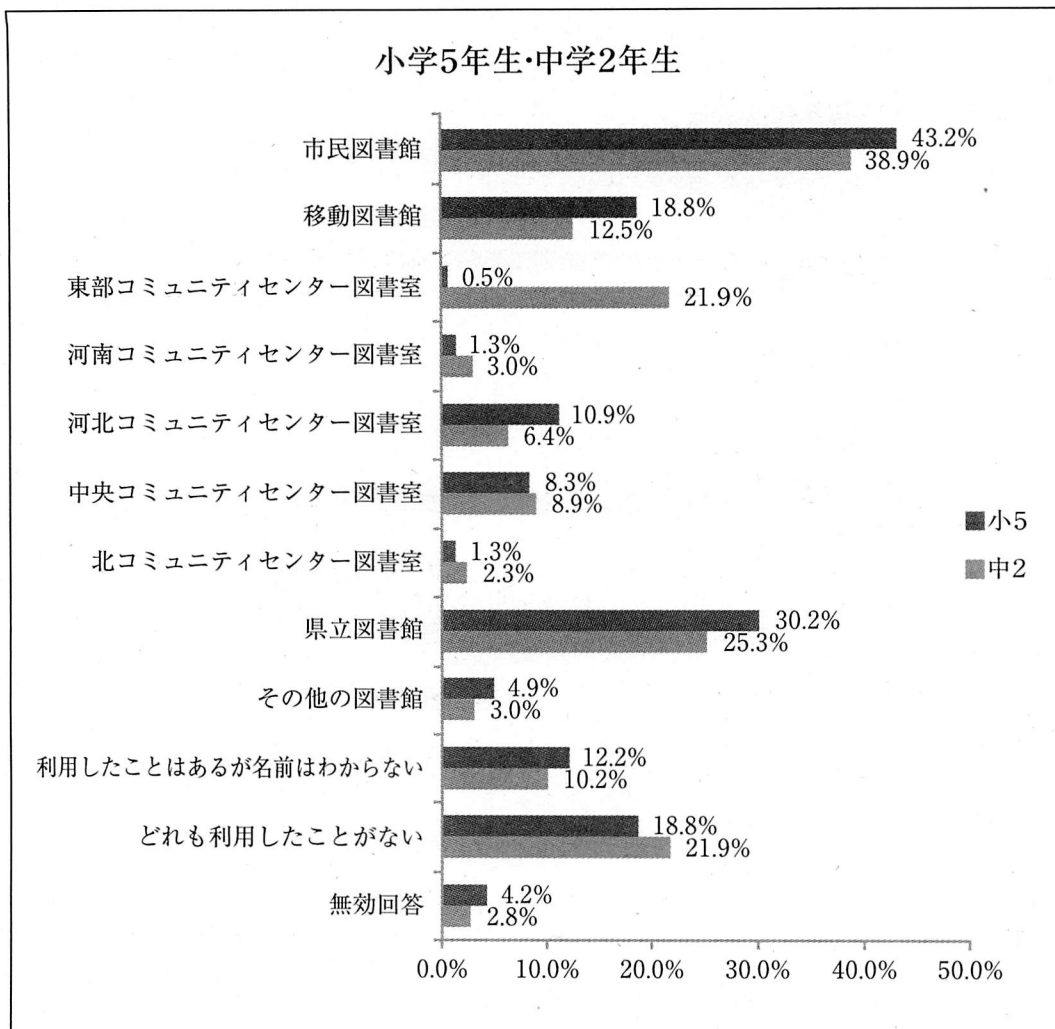


図書室の利用目的は、小学5年生では「本を借りる」と半数が回答しているのに対し、中学2年生は「無効回答」が半数近くと目立っている。

(3) 子どもの学校以外の読書の様子について

※小学5年生・中学2年生のみ

問：あなたは、学校以外の図書館や図書室などを利用したことがありますか。利用したことがある施設すべてに○をつけてください。

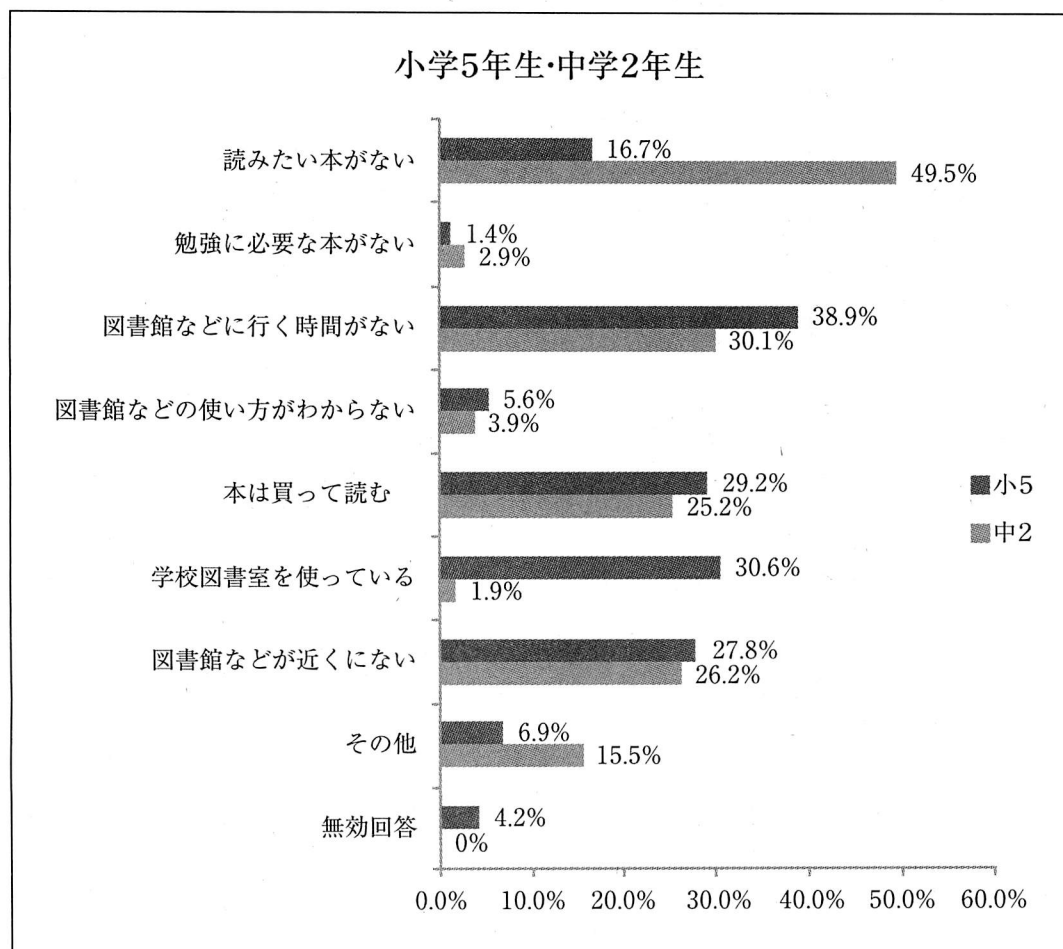


学校以外の図書館施設の利用状況は、小学5年生・中学2年生ともに「市民図書館」「県立図書館」の順に多かった。コミュニティセンター図書室の中では、東部コミュニティセンターが中学2年生21.9%と最も高くなっていて、河南・北コミュニティセンターの利用率の低さが目立つ結果となっている。また、「どれも利用したことがない」と回答した割合が、小学5年生・中学2年生ともに2割近くあった。

※小学5年生・中学2年生のみ

問：【図書館などの施設を利用したことがない人にお聞きします】

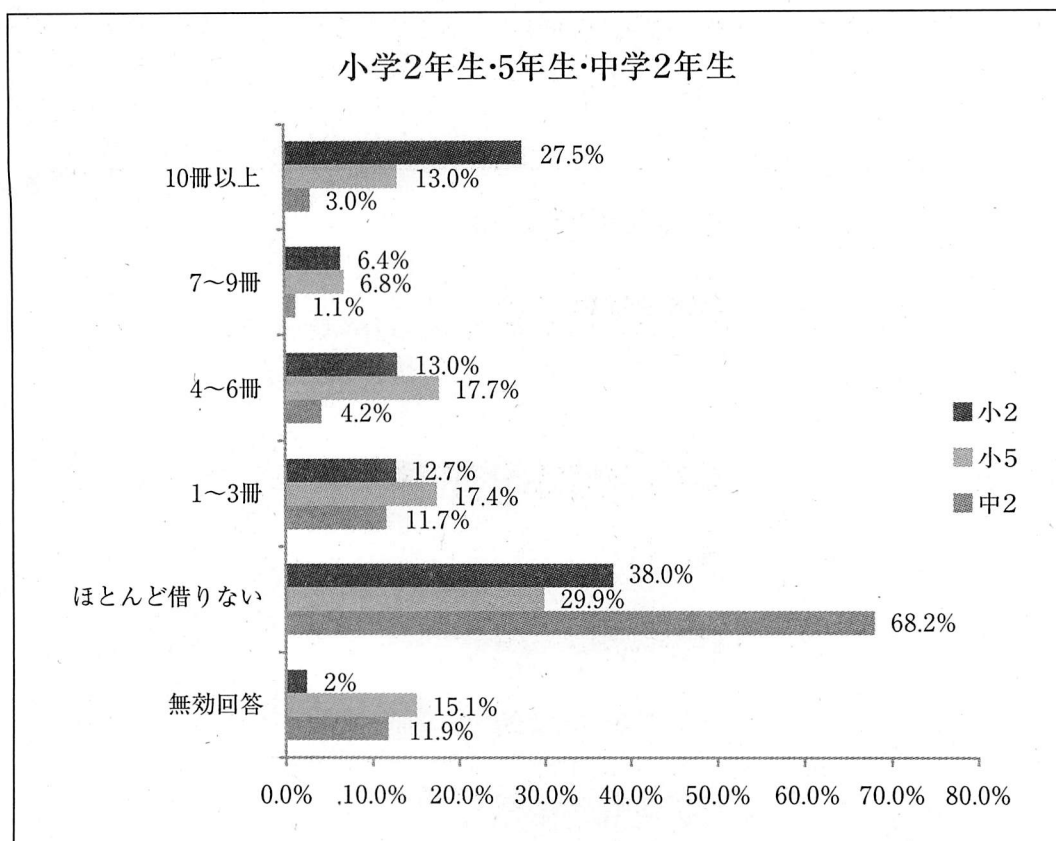
図書館などの施設を利用したことがない理由は何ですか。あてはまるものを3つまで○をつけてください。



前問で図書館施設を「どれも利用したことがない」と回答した児童・生徒にその理由を尋ねたところ、小学5年生では「図書館などに行く時間がない」「学校図書室を使っている」の順に多く、中学2年生では「読みたい本がない」「図書館などに行く時間がない」の順に多かった。

このような結果を見ると、中学2年生の半数近くが「読みたい本がない」と回答しているのに対し、小学5年生では16.7%にとどまっていることから、中学生に親しみやすい本の充実を特に図る必要があると考えられる。また、「図書館などに行く時間がない」との回答が小学5年生・中学2年生ともに上位を占めていることから、時間がなくても気軽に訪れることのできる環境づくりが必要であることが分かる。

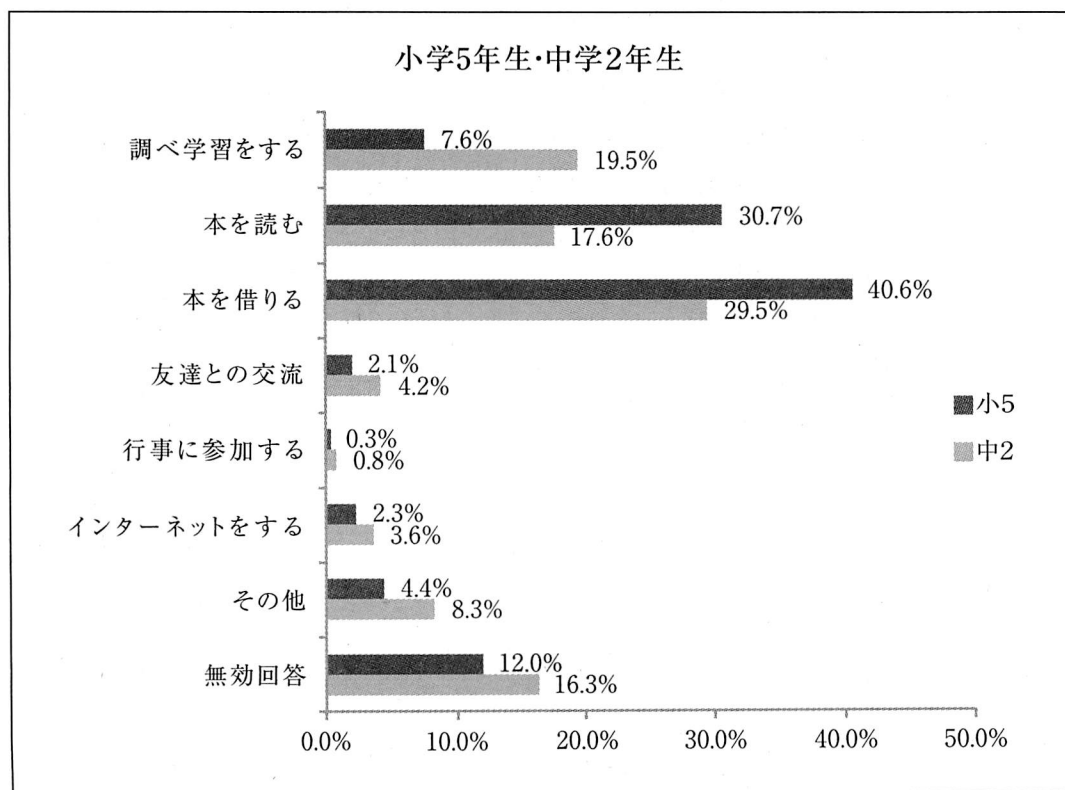
問：あなたは、図書館などの施設で1か月に何冊ぐらい本を借りていますか。



図書館施設で借りる本の冊数は、3学年ともに「ほとんど借りない」が最も多く、特に中学2年生は7割近い生徒がこのように回答している。図書館施設において、子どもが気軽に訪れ本を借りられる環境づくりが不可欠であることがわかる。

※小学5年生・中学2年生のみ

問：あなたは、図書館などの施設をどんなときに利用しますか。最もあてはまるもの1つに○をつけてください。

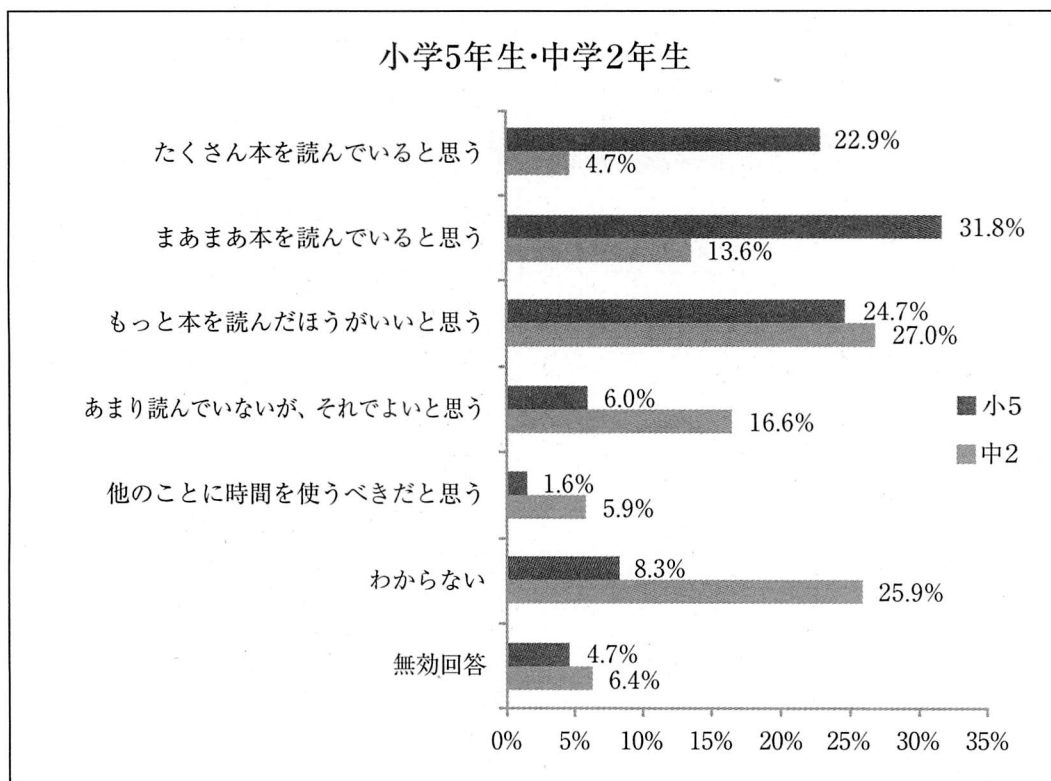
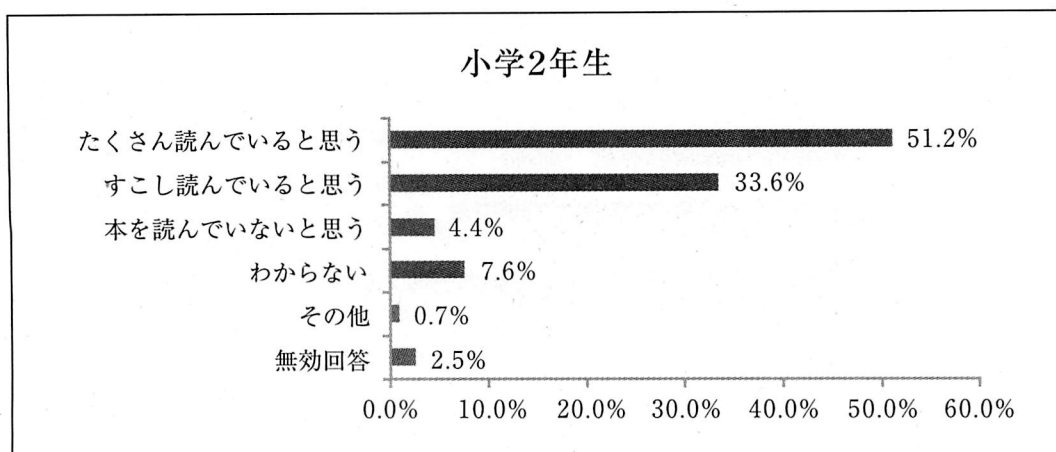


図書館施設の利用目的は、小学5年生・中学2年生ともに「本を借りる」が最も多く、次いで「本を読む」「調べ学習をする」との回答が多くなった。

(4) 子どもの読書に対する考え方について

問：あなたは、本をたくさん読んでいますか。(小学2年生用)

あなたは、自分の読書の量についてどう思いますか。(小学5年生・中学2年生用)

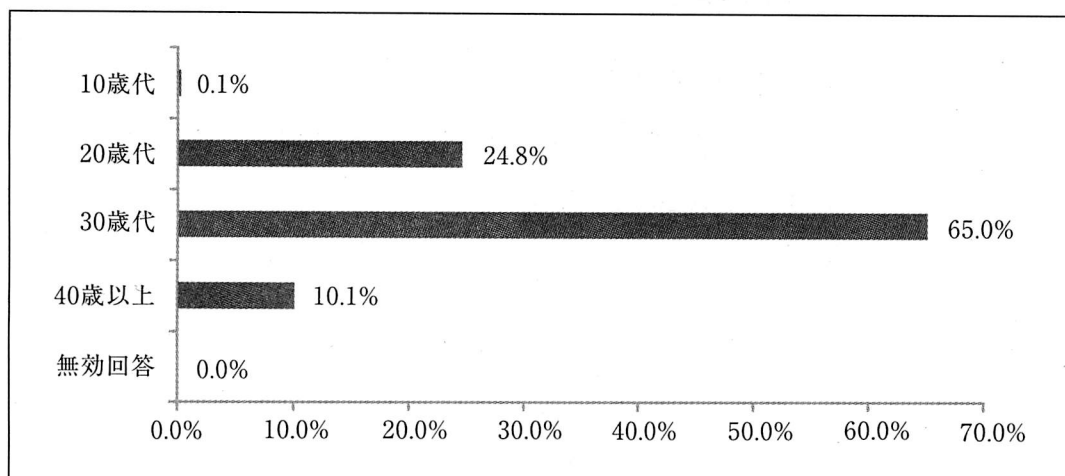


読書に対する考え方についての設問では、小学2年生は「たくさん読んでいると思う」との回答が最も多く、小学5年生は「まあまあ読んでいると思う」、中学2年生は「もっと読んだほうが良いと思う」との回答が多かった。「もっと読んだほうが良いと思う」と回答した割合は小学5年生でも24.7%と2番目に高い結果となっている。

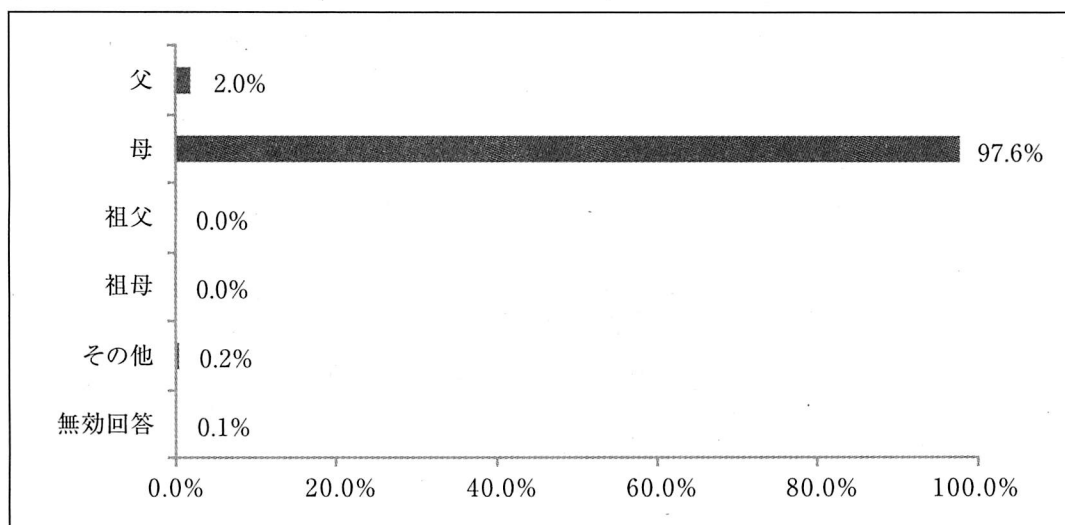
読書冊数を見ると、学年が上がるにつれて減少する傾向があるが、本をあまり読まない子どもも、もっと本を読んだほうが良いと考えていることが多いことから、読書のきっかけや習慣づくりをしてあげることによってこのような子どもたちの読書活動を推進できると考えられる。また、中学2年生で「あまり読んでいないが、それでよいと思う」との回答する生徒が比較的多いことから、読書の大切さの啓発も合わせて行う必要がある。

乳幼児アンケート調査結果

問1：あなたの年齢についてお尋ねします。

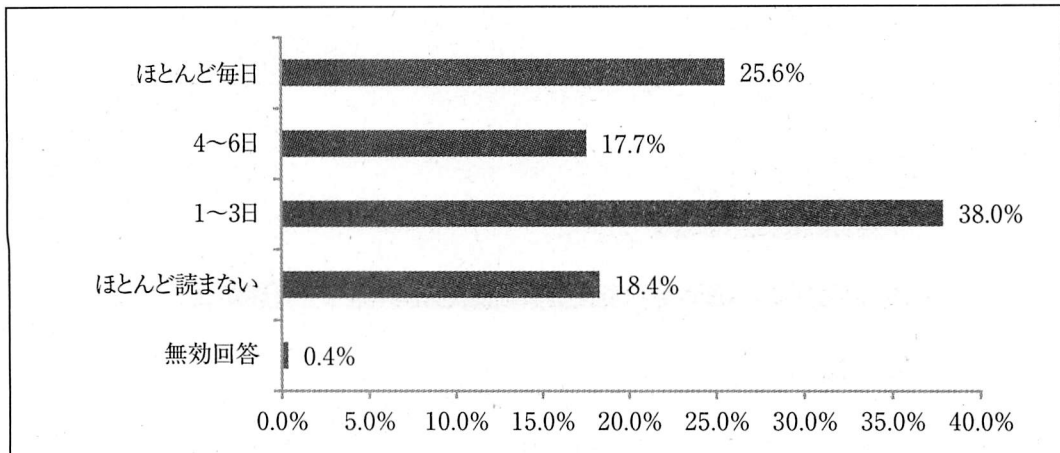


問2：あなたとお子様との続柄についてお尋ねします。



回答者は、30歳代が65.0%と最も多く、次いで20歳代が24.8%となった。また、対象者は、母親が97.6%と多数を占めていた。

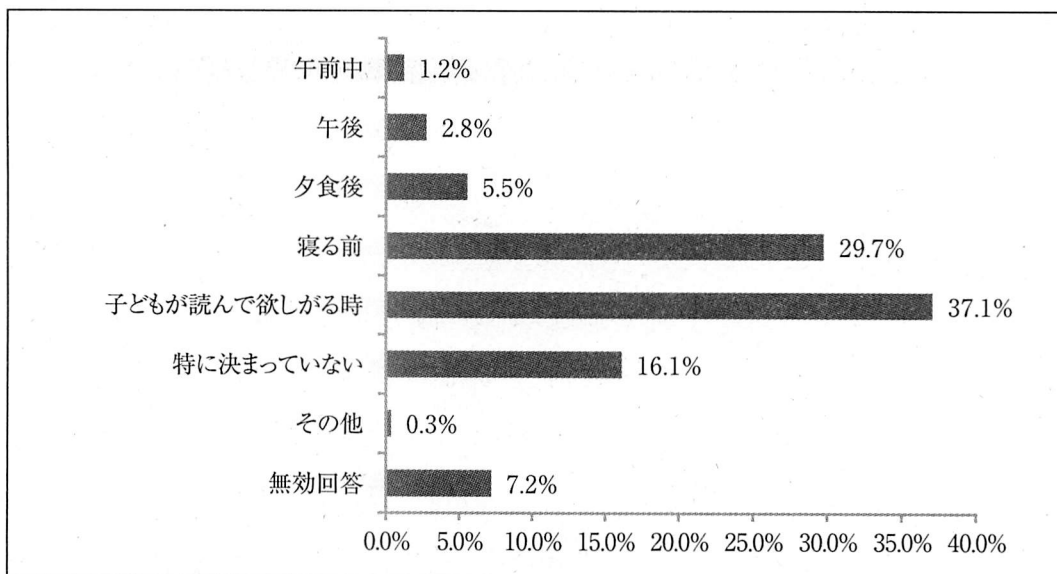
問3：あなたのご家庭ではお子様に1週間のうちどれくらい絵本を読んでもらいますか。



1週間の読書数は、「1~3日」が最も多く、38.0%であった。次いで「ほとんど毎日」が25.6%となった。約8割の家庭が、読みきかせを行っていることがわかった。

問4：問3で①~③「絵本を読んでいる」と答えた方にお聞きします。

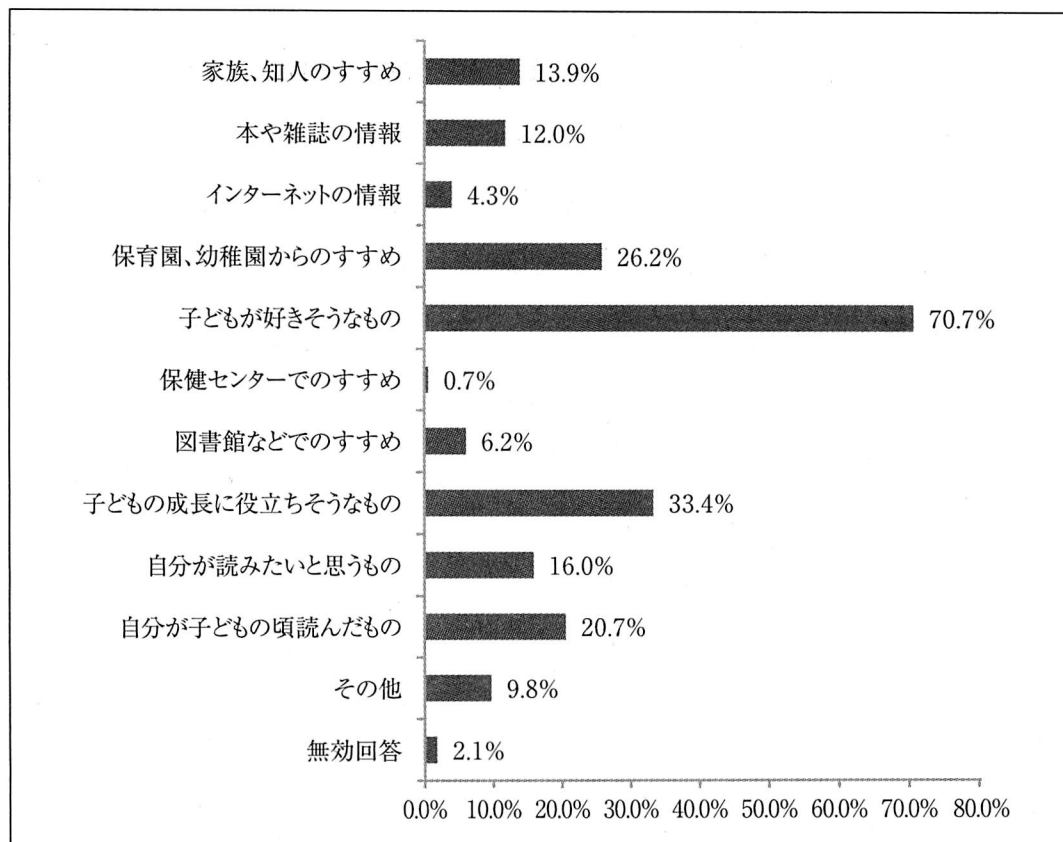
お子様に絵本を読んでもらう時間帯は、主にいつですか。(最もあてはまるものを1つ選択)



読み聞かせを行っている時間帯は、「子どもが読んで欲しがる時」が37.1%と最も多く、次いで「寝る前」が29.7%となった。

問5：問3で①～③「絵本を読んでいる」と答えた方にお聞きします。

絵本を選ぶ際にどのようなことを参考にしていますか。(あてはまるものを3つまで選択)

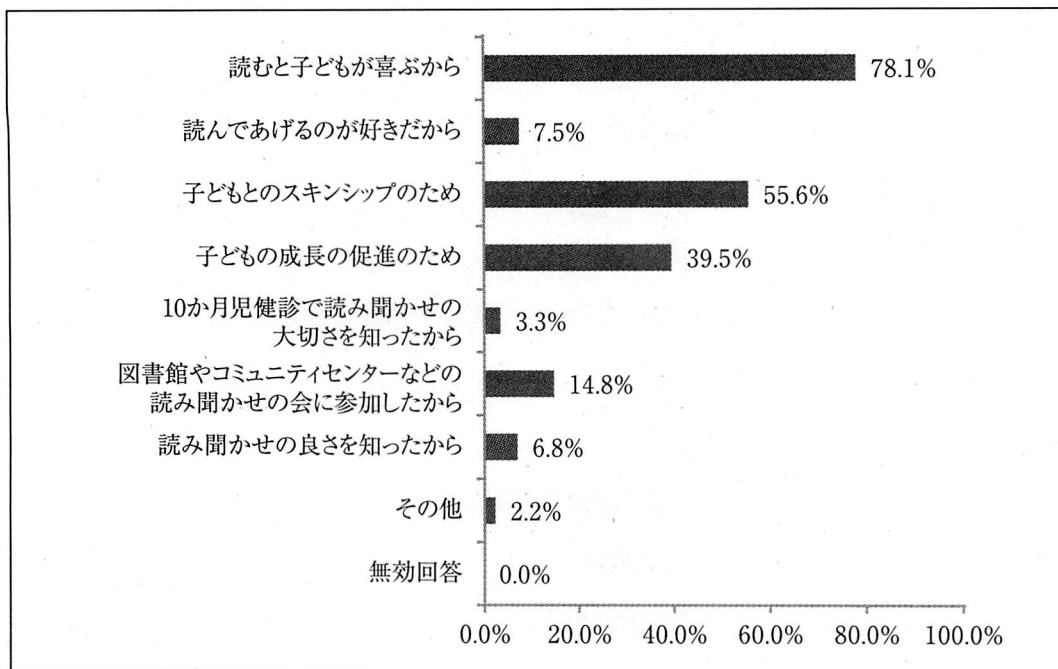


絵本を選ぶ際に参考にしているものは、「子どもが好きそうなもの」が70.7%で目立って高い結果となった。次いで「子どもの成長に役立ちそうなもの」「保育園、幼稚園からのすすめ」の順で多くなった。市が関わるものは、「保育園、幼稚園」「保健センター」「図書館」があるが、保育園・幼稚園の回答が26.2%あるのに対し、保健センター、図書館と回答している割合の低さが目立っている。

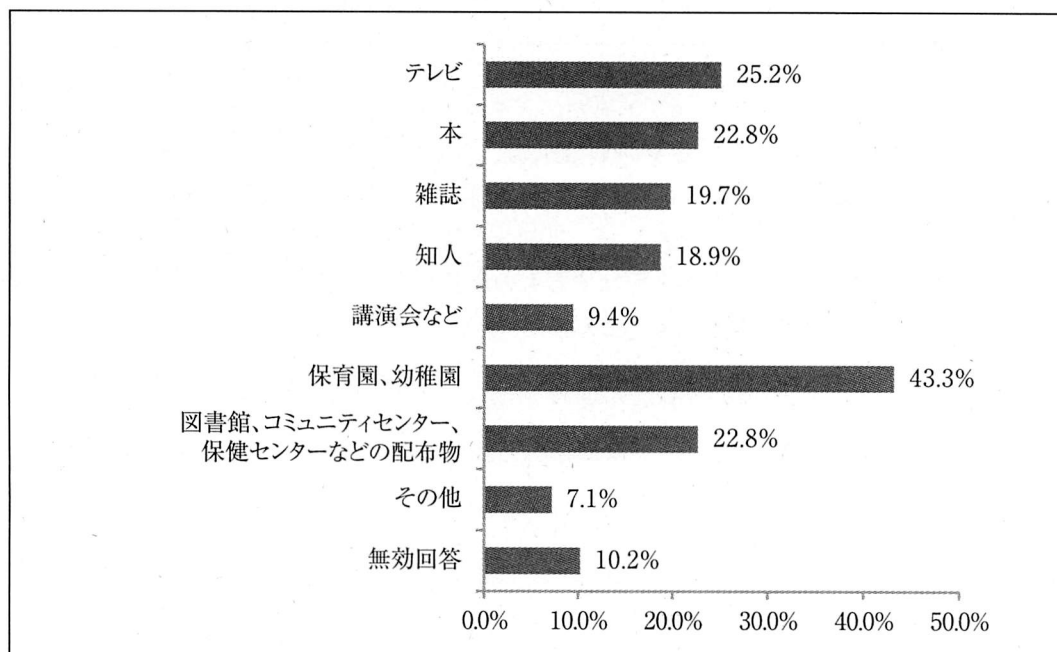
このような結果から、保健センターや図書館は子どもの成長や図書に関して専門的な情報を、家庭に提供する努力をさらにすすめる必要があると考えられる。

問6：問3で①～③「絵本を読んでいる」と答えた方にお聞きします。

お子様に絵本を読んであげる理由やきっかけは何ですか。(あてはまるものを3つまで選択)



問6—⑦：どのような方法で知ったのかを下記からお選びください。(複数回答可)

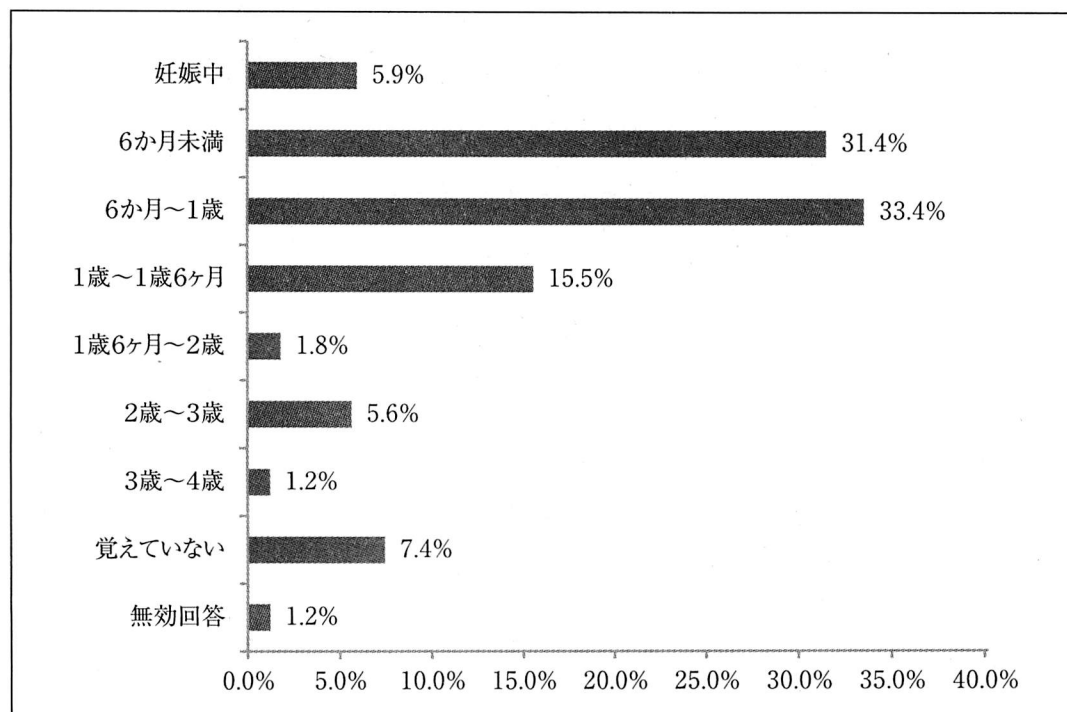


絵本を読む理由はきっかけでは、「読むと子どもが喜ぶから」が78.1%と最も高く、ついで「子どもとのスキンシップのため」「子どもの成長の促進のため」の順に多くなった。一方、「10か月健診で読み聞かせの良さを知ったから」や「図書館やコミュニティセンターなどの読み聞かせの会に参加したから」と回答している割合が低くなっている。

この結果から、保健センターや図書館、コミュニティセンターは読み聞かせの会や教室などを通して、読み聞かせのきっかけづくりを行う努力をさらに行う必要があることがわかる。

問7：問3で①～③「絵本を読んでいる」と答えた方にお聞きします。

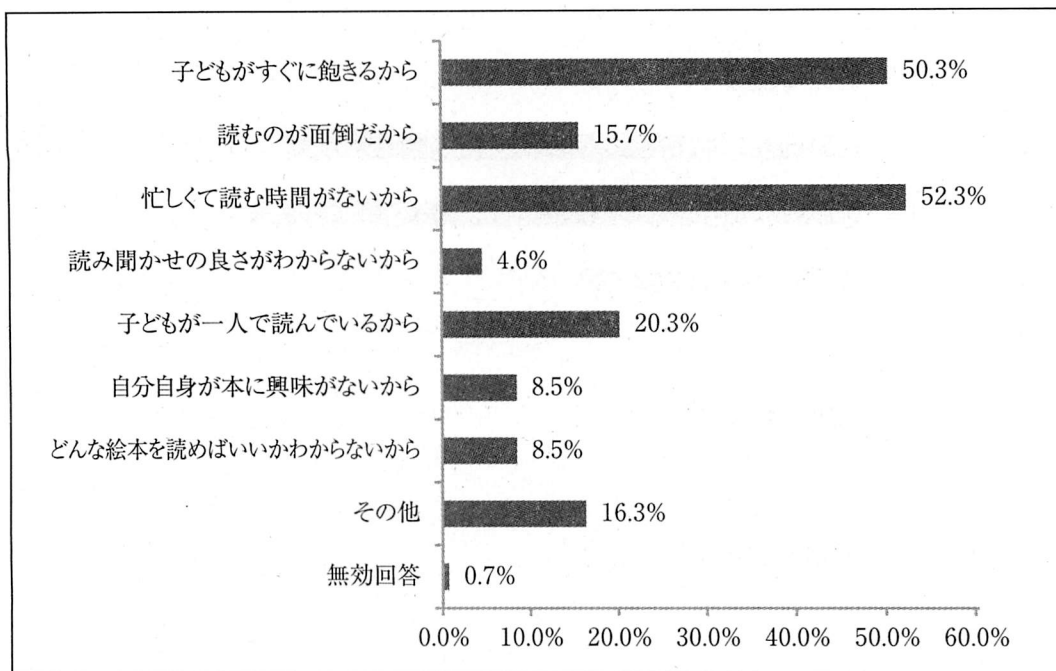
初めての読み聞かせはいつ頃ですか。



初めて読み聞かせを行った年齢は、「6か月～1歳未満」が33.4%と最も多く、次いで「6か月未満」「1歳～1歳6か月」の順になった。特に生まれてから、1歳までの間に行っている家庭が多いことがわかった。1歳に達するまでに読み聞かせのきっかけづくりを行うことによって、各家庭での読書活動の更なる推進に効果的であると考えられる。

問8：問3で④「ほとんど読まない」と答えた方にお聞きします。

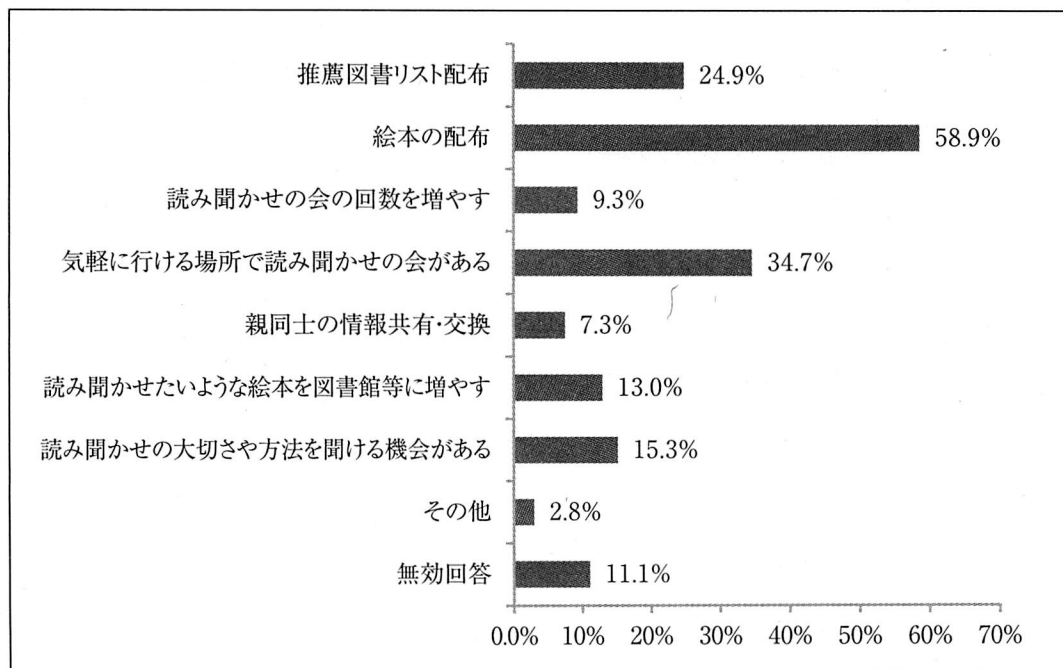
お子様に絵本をほとんど読まない理由は何ですか。(あてはまるものを3つまで選択)



絵本をほとんど読まない家庭にその理由を尋ねたところ、「忙しくて読む時間がないから」が52.3%、「子どもがすぐに飽きるから」が50.3%と半数以上が回答している。時間がなくても気軽に読むことのできる絵本を推薦したり、子どもが飽きないような読み聞かせの方法などを提案したりすることが、本を読んでいる家庭に読み聞かせをすすめる効果的な方策であると考えられる。

問9：絵本を読むきっかけとしてどのようなことがあれば良いと思いますか。

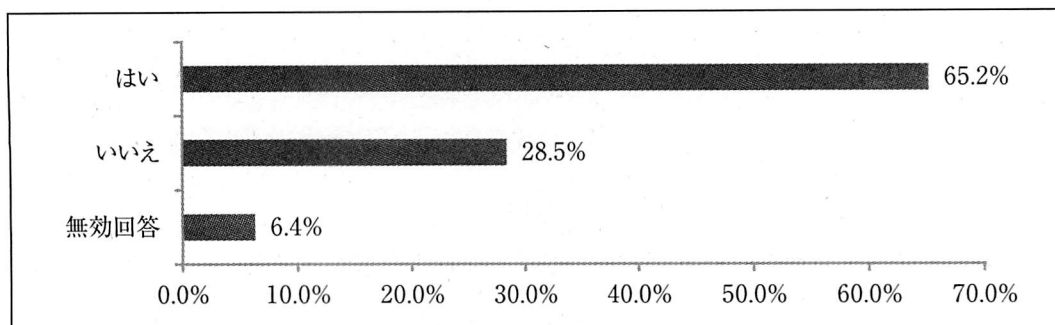
(あてはまるものを3つまで選択)



絵本を読むきっかけとしてあれば良いと保護者が感じていることは、「絵本の配布」が58.9%と目立って高く、次いで「気軽に行ける場所で読み聞かせの会がある」「推薦図書リストの配布」の順であった。各家庭に絵本や推薦図書を配布したり、小さな子どもがいる家庭でも気軽に行ける場所で読み聞かせの会を開催したりすることが、きっかけづくりに効果的であることがわかった。

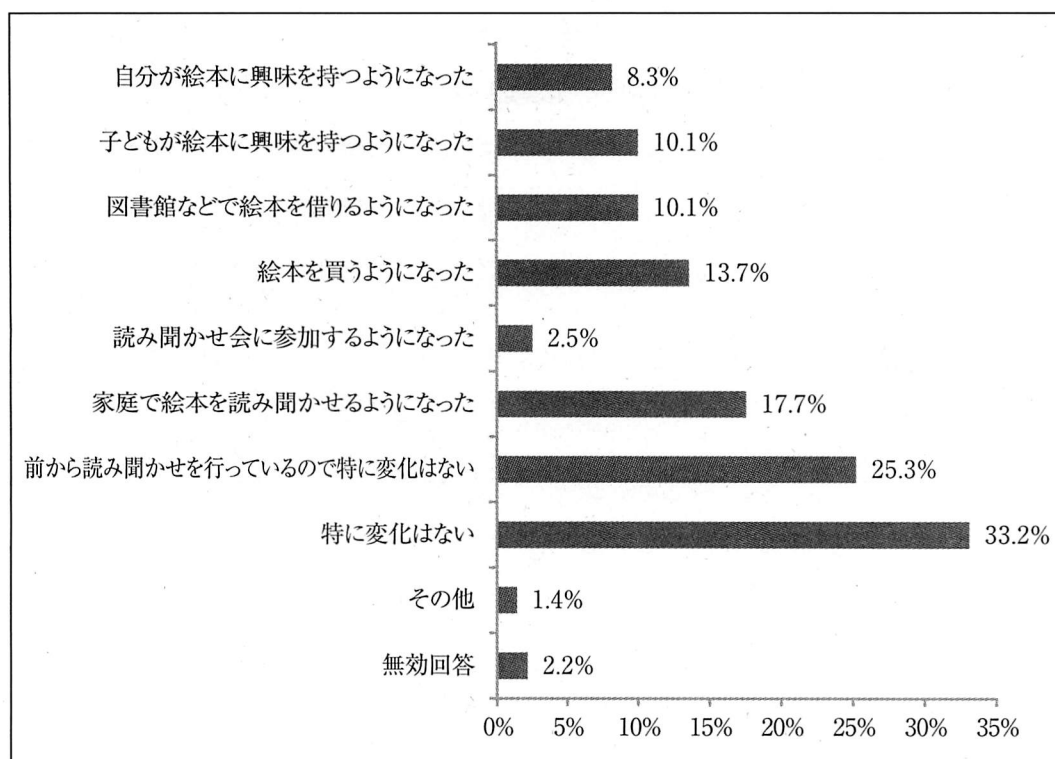
※1歳6か月児健診児のみ

問10：あなたは10か月児健診の時に、絵本の読み聞かせについて聞きましたか。



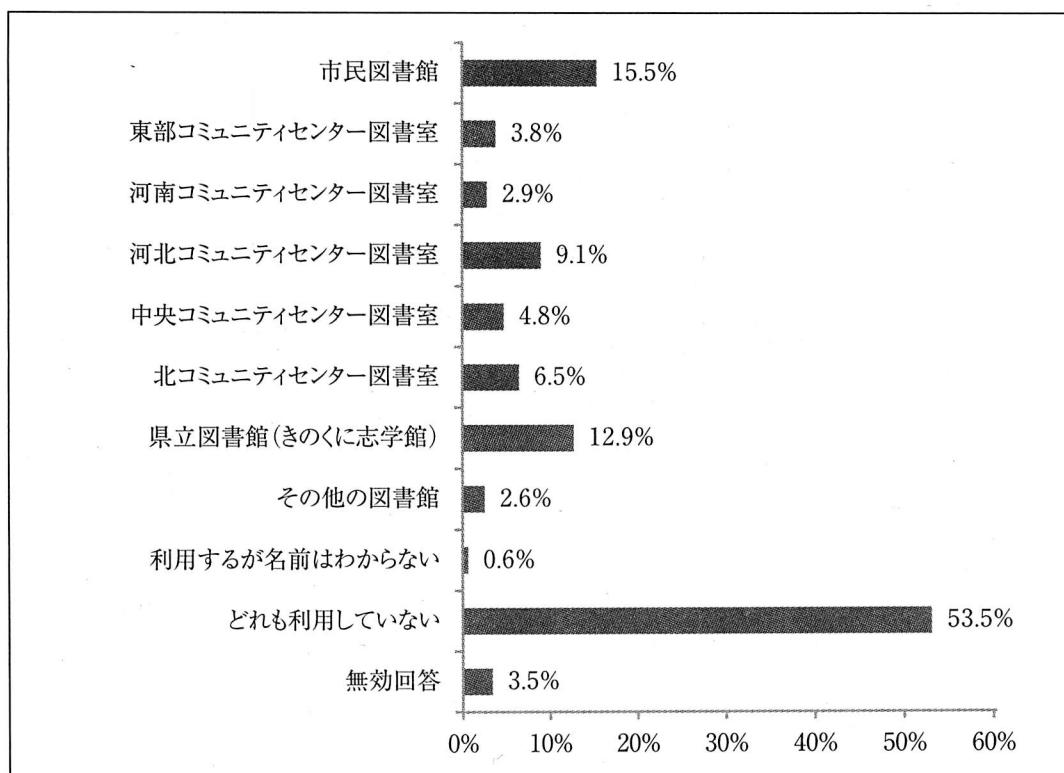
問11：問10で①「はい」と答えた方にお聞きします。

絵本の読み聞かせについて聞いて、何か変化はありましたか。(複数回答可)



23年度から行っている、10か月児健診の際の読みきかせ教室について参加率と、その後の変化を調査したところ、参加率は6割程度で、その後の変化として最も多かったのが「特に変化はない」で33.2%であった。参加率の増加と、本を読まない家庭にも変化を与える内容の充実が今後の課題である。

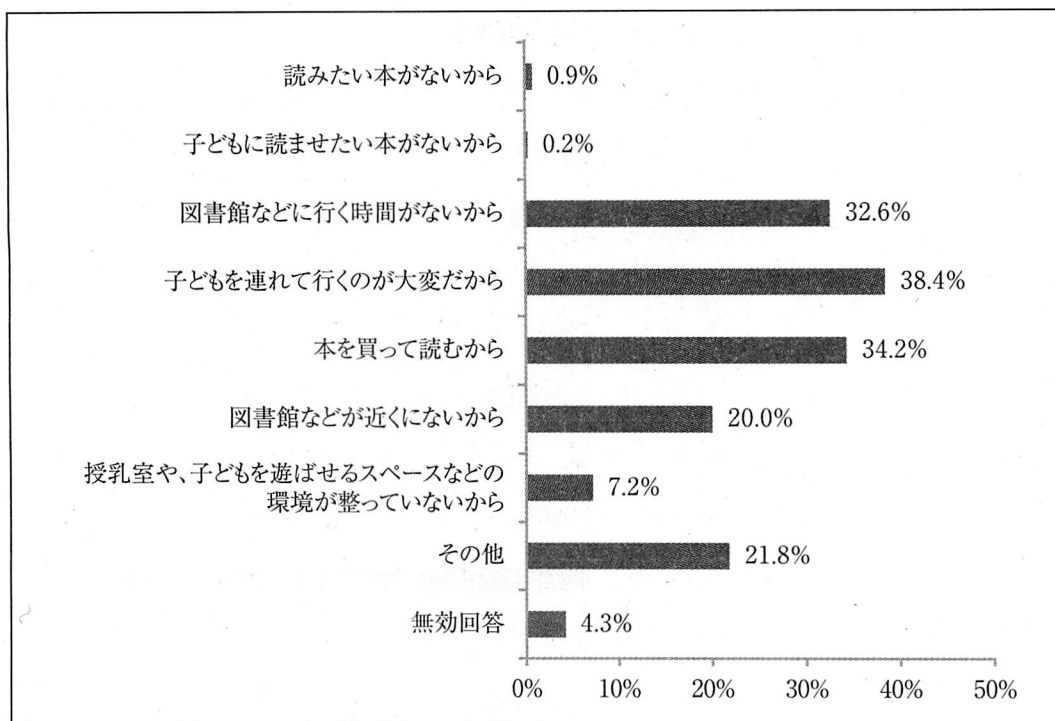
問12：あなたは、図書館などを利用していますか。利用する施設すべてに○をつけてください。



図書館などの利用状況は、「どれも利用していない」との回答が半数以上を占める結果となった。次いで、市民図書館、県立図書館の順だが、いずれの施設も利用率は低い。

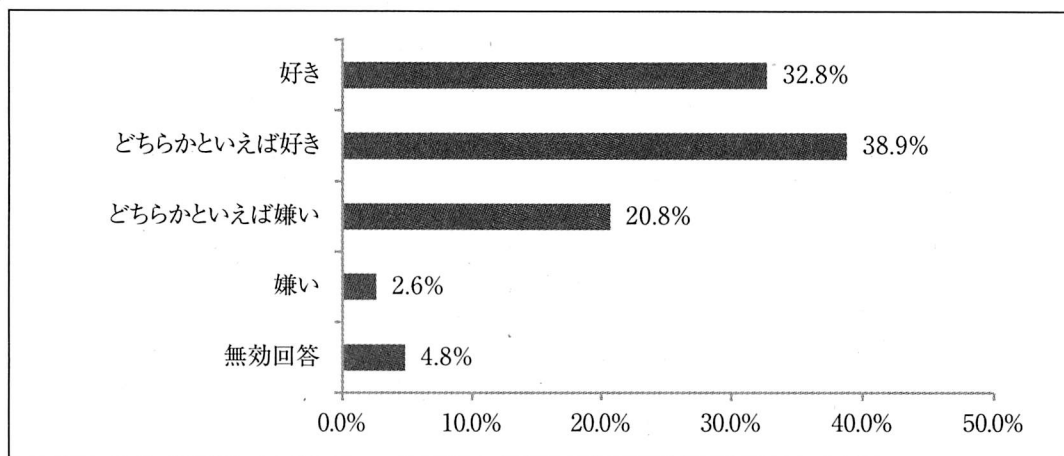
問13：問12で⑩「どれも利用していない」と答えた方にお聞きします。

図書館などの施設を利用しない理由は何ですか。(あてはまるものを3つまで選択)

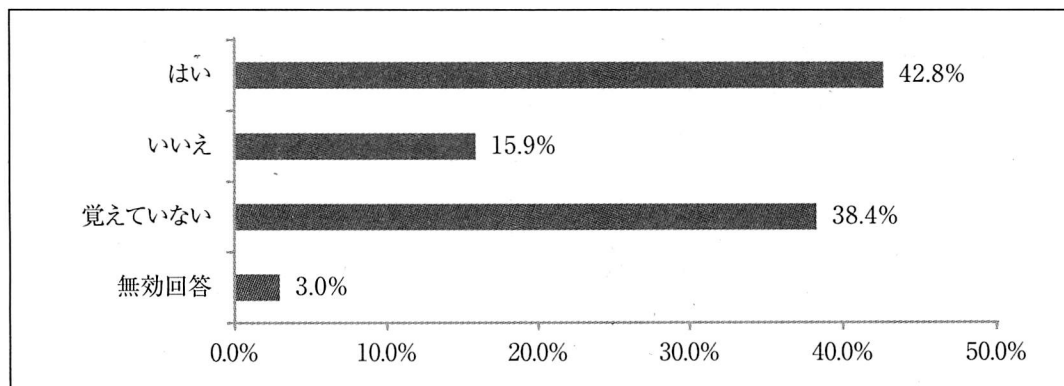


図書館などの施設を利用しない理由は、「図書館などに行く時間がないから」「子どもを連れて行くのが大変だから」「本を買って読むから」の順に多くなった。図書の中身に起因する理由は少なく、やはり小さな子どもがいることが、図書館への足を遠のかせている大きな原因の一つであることがわかる。キッズスペースの活用や職員の対応など、小さな子どもが来ても居やすい雰囲気づくりが必要だと考えられる。

問14：あなた自身は、本を読むのが好きですか。



問15：あなた自身は、子どもの頃家庭で絵本の読みかせをしてもらいましたか。



回答者自身の読書状況について調査したところ、「好き」あるいは「どちらかといえば好き」との回答が7割以上であった。また、子どもの頃読み聞かせをしてもらったか否かについては、42.8%の保護者が「はい」と回答した。

資料編

和歌山市民図書館

	住所	電話番号	蔵書数(冊)	
			一般書	児童書
和歌山市民図書館	和歌山市 湊本町3丁目1番地	073- 432-0010	319,729	127,944

平成24年12月31日現在

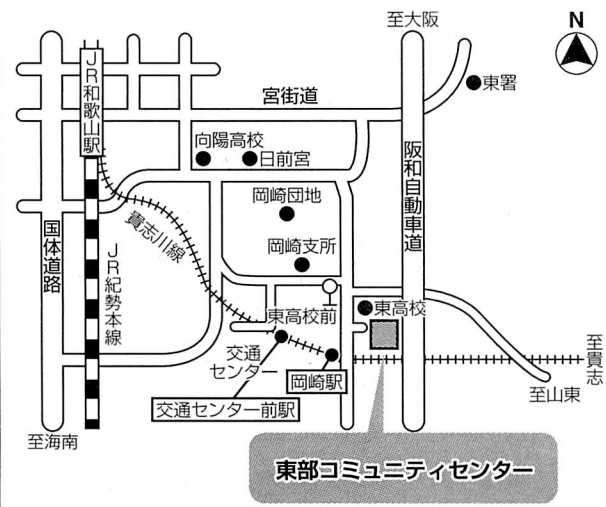


和歌山市民コミュニティセンター

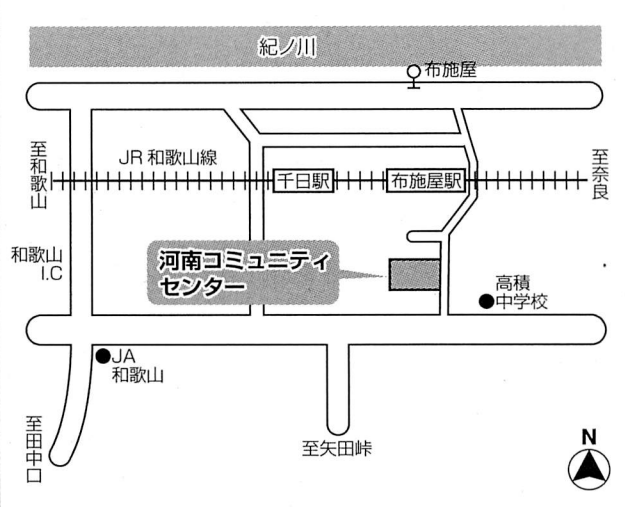
	住所	電話番号	蔵書数(冊)	
			一般書	児童書
東部 コミュニティセンター	和歌山市 寺内665番地	073- 475-0020	30,817	16,650
河南 コミュニティセンター	和歌山市 布施屋41番地	073- 477-6522	26,047	14,818
河北 コミュニティセンター	和歌山市 松江北2丁目20-7	073- 480-3610	21,210	14,404
中央 コミュニティセンター	和歌山市 三沢町1丁目2	073- 402-2678	15,291	10,842
北 コミュニティセンター	和歌山市 直川326番地の7	073- 464-3031	16,538	10,481

平成24年12月31日現在

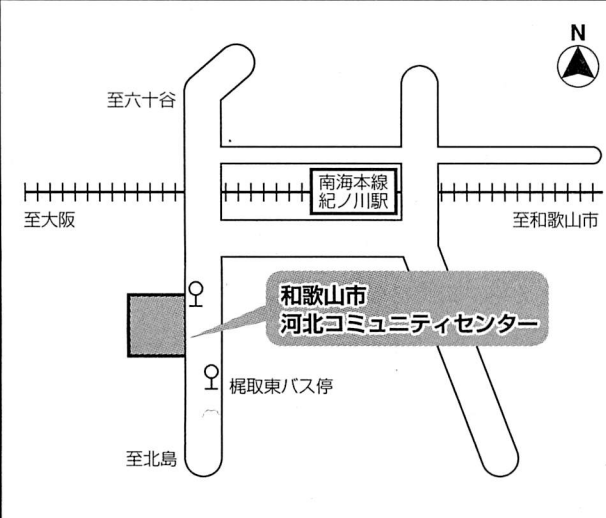
東部コミュニティセンター



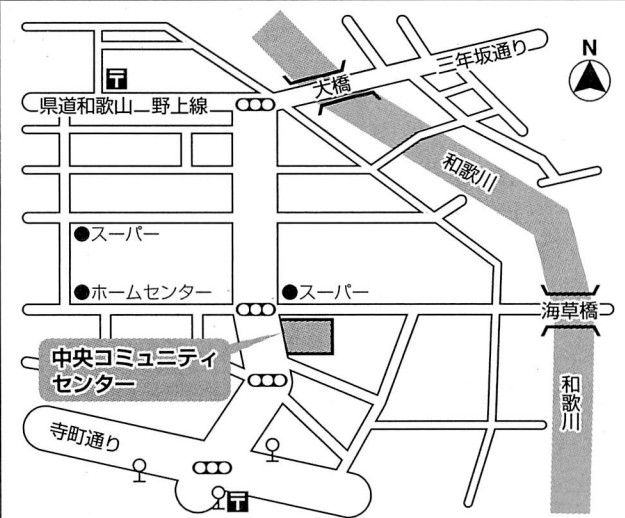
河南コミュニティセンター



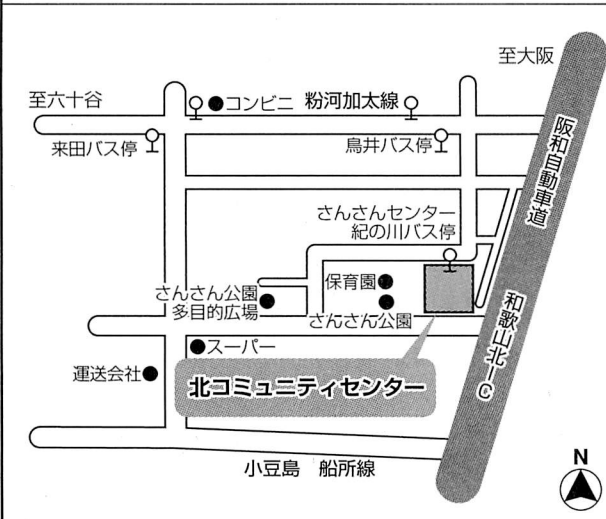
河北コミュニティセンター



中央コミュニティセンター



北コミュニティセンター



毎月第1土曜日は「うちどく」の日

そのうち「徳」する うちどく(おうちで読書)のすすめ

～「うちどく」でことばの力を育て、心を磨きましょう～
和歌山市教育委員会では、子どもの心身ともに豊かですこやかな成長を願い、うちどくを推進しています。

このたび、毎月第1土曜日を「うちどくの日」に設定し、幼稚園、学校、家庭、地域、関係機関等が連携しながら子どもの読書活動を一層推進していきたいと考えます。

設定の理由

平成24年5月第1土曜日である5月5日(土)は、4月23日(月)～5月12日(土)の「こどもの読書週間」の中日に当たること、また、子どもが家族や親しい人とともに過ごすことが見込まれることから幼稚園、学校、家庭、地域、関係機関が連携しながら子どもの読書活動を推進していくにふさわしいと考え、本年5月5日をスタートに、以後、毎月第1土曜日を「うちどく」の日として設定します。

「うちどく」とは？

子どもを育てる世代の家庭で、本を中心に子どもといっしょに読書する時間をもつ取組を「おうちで読書」、略して「うちどく」といいます。

「うちどく」の方法は？

特にきまりはありません。家庭の事情や子どもの発達に応じて、30分から1時間程度、テレビを消して、パソコンを閉じて、家族一緒におうちで読書する習慣を定着させることを願うものです。

「うちどく」のよさ

- ◇「うちどく」により家族と一緒に過ごす時間が増えます。家族や親しい人と本の内容について語り合う経験を重ねることが、子どもの心を潤し耕していきます。
- ◇本を中心に、読む・書く・伝え合う・暗唱するなどの言語活動と組み合わせ、総合的な「ことばの力」を育てていくことができます。
- ◇読書を続けることで、子どもに人間の生き方や社会、自然についての正しく豊かな見方、考え方、感じ方を身につけさせることができます。それは、やがて子どもの心に「徳」となって根付いていきます。
- ◇和歌山市教育委員会では、このようなことから「うちどく」を推進するため、毎月第1土曜日を「うちどく」の日に設定するとともに次のような取組を進めています。
 - ・うちどく用図書を、各学校に配置します。
 - ・うちどくノートを各幼稚園や学校、市民図書館やコミュニティセンターなどで配付します。

(目的)

第1条 この法律は、子どもの読書活動の推進に関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務等を明らかにするとともに、子どもの読書活動の推進に関する必要な事項を定めることにより、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって子どもの健やかな成長に資することを目的とする。

(基本理念)

第2条 子ども（おおむね18歳以下の者をいう。以下同じ。）の読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであることにかんがみ、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない。

(国の責務)

第3条 国は、前条の基本理念（以下「基本理念」という。）にのっとり、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的に策定し、及び実施する責務を有する。

(地方公共団体の責務)

第4条 地方公共団体は、基本理念にのっとり、国との連携を図りつつ、その地域の実情を踏まえ、子どもの読書活動の推進に関する施策を策定し、及び実施する責務を有する。

(事業者の努力)

第5条 事業者は、その事業活動を行うに当たっては、基本理念にのっとり、子どもの読書活動が推進されるよう、子どもの健やかな成長に資する書籍等の提供に努めるものとする。

(保護者の役割)

第6条 父母その他の保護者は、子どもの読書活動の機会の充実及び読書活動の習慣化に積極的な役割を果たすものとする。

(関係機関等との連携強化)

第7条 国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策が円滑に実施されるよう、学校、図書館その他の関係機関及び民間団体との連携の強化その他必要な体制の整備に努めるものとする。

(子ども読書活動推進基本計画)

第8条 政府は、子どもの読書活動の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（以下「子ども読書活動推進基本計画」という。）を策定しなければならない。

2 政府は、子ども読書活動推進基本計画を策定したときは、遅滞なく、これを国会に報告するとともに、公表しなければならない。

3 前項の規定は、子ども読書活動推進基本計画の変更について準用する。

(都道府県子ども読書活動推進計画等)

第9条 都道府県は、子ども読書活動推進基本計画を基本とするとともに、当該都道府県における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該都道府県における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画（以下「都道府県子ども読書活動推進計画」という。）を策定するよう努めなければならない。

2 市町村は、子ども読書活動推進基本計画（都道府県子ども読書活動推進計画が策定されているときは、子ども読書活動推進基本計画及び都道府県子ども読書活動推進計画）を基本とするとともに、当該市町村における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該市町村における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画（以下「市町村子ども読書活動推進計画」という。）を策定するよう努めなければならない。

3 都道府県又は市町村は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画を策定したときは、これを公表しなければならない。

4 前項の規定は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画の変更について準用する。

(子ども読書の日)

第10条 国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるため、子ども読書の日を設ける。

2 子ども読書の日は、4月23日とする。

3 国及び地方公共団体は、子どもの読書の日趣旨にふさわしい事業を実施するよう努めなければならない。

(財政上の措置等)

第11条 国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策を実施するため必要な財政上の措置その他の措置を講ずるよう努めるものとする。

附 則

この法律は、公布の日から施行する。

和歌山市子ども読書活動推進計画策定委員会設置要綱

(設置)

第1条 子どもの読書活動の推進に関する法律（平成13年法律第154号）第9条第2項の規定に基づく和歌山市子ども読書活動推進計画の策定その他計画の策定に必要な事項を行わせるため、和歌山市子ども読書活動推進計画策定委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(組織)

第2条 委員会は、委員長、副委員長及び委員により構成する。

2 委員長は生涯学習部長、副委員長は生涯学習課長の職を占める者をもって充てる。

3 委員は、次に掲げる課の課長の職を占める者をもって充てる。

(1) 教育政策課

(2) 学校教育課

(3) 教職員課

(4) 青少年課

(5) 市民図書館

(6) 子育て支援課

(7) 保育課

(8) 地域保健課

4 委員長は、会務を掌理し、会議の議長となる。

5 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第3条 委員会の会議は、委員長が、必要に応じて招集し、議長となる。

2 委員長は、必要があると認めるときは、委員会の構成員以外の者を委員会の会議に出席させ、その意見を聴き、又は説明を求めることができる。

(作業部会)

第4条 委員会が必要とする計画原案の作成及び調査研究を行わせるため、委員会に作業部会を置く。

2 作業部会は、部会長及び部会員により構成する。

3 部会長は生涯学習課に属する職員のうちから、部会員は第2条第3項各号に掲げる課の職員のうちから、委員長が指名する。

(庶務)

第5条 委員会の庶務は、生涯学習課において処理する。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が会議に諮って定める。

附 則

1 この要綱は、平成24年5月14日から施行する。

2 この要綱は、和歌山市子ども読書活動推進計画の策定が完了した時に、その効力を失う。

和歌山市子ども読書活動推進計画

発行日 平成25年3月

発行 和歌山市

編集 和歌山市教育委員会

生涯学習部 生涯学習課

〒640-8511 和歌山市七番丁23番地

電話 073-432-0001(代表)